

KOMAT'SU

コマツ栗津工場OB会

会誌 第38号



苗名の滝

“ 2017 ”
平成 29 年

本号内容のあらまし

OB会 平成28年度行事報告

フォトハイライト

会員寄稿文集

随筆、紀行文、思い出、など
地区活動報告・トピックス

表紙の説明

題 名 苗名の滝
撮影日時 2016年6月7日
撮影場所 新潟県 妙高高原

昨年6月7日(火) 遠征ウォーキングで妙高高原の「苗名の滝」前にて、参加者全員で撮影したもの。

日本百名滝の一つで、別名地震滝といわれるほど落差55mで流れ落ちる水音は迫力満点です。

この後、妙高温泉郷を含む「森林セラピーロード」をウォーキングしました。なお「苗名の滝」は紅葉のシーズンもすばらしいとのこと。

(撮影：向井 良夫)

巻頭のご挨拶

コマツ栗津工場OB会

会長 竹田 敏洋

本会の会誌第三十八号の発行にあたりご挨拶申し上げます。私は平成二十八年四月二十三日小松市民センターにて開催された「第三十九回定期総会において承認され、前西尾皓史会長から引き継ぐことになりました。正直多少の不安と緊張感に襲われましたが、役員の皆様方を始めとして会員の皆様のご協力と寛容の精神のお陰で本年度の活動計画はいずれも滞りなく進めることができました。あらためて皆様のご協力に感謝申し上げます。

五月十三日に満五周年を迎えたこまつ杜ですが、昨年末で来園者数が四万七千人を超え、延べ三十二万人を超えたとのこと。運営に携わるOB会員も三百十六名が登録されており延べ参加人員も年間六千五百人に達しています。こまつの杜の活動に参加できる我々OBとして、このようなボランティア活動ができる場があることを誠にありがたく感謝せねばならないと感じています。

このこまつの杜の活動について、七月にNHK「あさイチ」で理科教室が生中継さ

れました。緊張した面持ちのOBスタッフでしたが、その様子はレポータの小堺翔太さんの爽やかトークで見事に全国にオンエアされました。北陸新幹線の開業の影響もあり、お隣のサイエンスヒルズを含むJR小松駅周辺地区の開発が国の地方活性化の一つのモデルとなつて北陸地方にスポーツが当たる機会が増えているように見受けられます。その理科教室では「コマツ塾」が新たなコースとして開講されました。子供たちが、興味をもち疑問に思ったことを、自ら調べ課題解決し、その体験をまとめて発表することで、自らの考えをきちんと意思表示できるようにするという、これからの時代に求められる自ら考えて行動する力を、約一年間継続して体験するものです。塾生たちの成長過程を間近で見ていることは、我々にとつても、時に大きな驚きであり、かつ喜びでもあります。

またこまつの杜の公園には永年の努力が実つてホタルが見られるようになり、四季折々の花や、田んぼに案山子など子供たちの歓声が聞こえる公園になってきました。公園の樹木もしっかりと大きくなり、まさにみどりのこまつに相応しくなってきました。

平成二十九年度のOB会総会は設立以来第四十回と節目を迎えることを記念して、五月二十七日にサイエンスヒルズをお借り

して開催する予定です。OB会設立当時の様子については、会誌第三十五号に寄稿された会員山本光栄氏の「コマツ栗津工場OB会設立の経緯について」を拝読すると当時のご苦労が偲ばれます。「定年退職してからさみしい人生では申し訳ない、生きがいのある人生を送るお手伝いをしたい」との思いで設立されたOB会、今まさに絶頂期にあるのではないかと感じます。翻って日本全体では人口の減少期を迎えています。OB会もかつて平成二十四年度には二百二十名を記録しましたが、少しずつ減少し平成二十九年二月末には千九百七十八名となりました。戦後ベビーブーム時代の人たちのOB会への入会が完了し、これからは定年が延長されて老後も元氣な層が増して来ることもあり、会員が減少傾向を辿るのもやむを得ない環境にあります。そうした中で設立当初の目的である「生きがいを得られる活動の場と機会を提供」していけるよう、会員相互の親睦・交流を深めるべく皆様からの声、ご意見をきちんと真摯に受け止め、今後の活動に反映させ会員皆様のOBとしての誇りと期待により応えていくように活動していきたいと考えております。

末筆ながら会員皆様のご健勝を祈念しOB会行事とボランティア活動への参加をお願い申し上げます。

第三十九回 定期総会を開催

平成二十八年度行事計画・予算・新役員などを決定
昼食懇親会は出身職場ごとの席で交流を深める

開催日時 平成28年4月23日(土)
午前10時～

開催場所 小松市民センター 大ホール

出席 会員370名、来賓他13名、計383名

◆総会次第◆

開会の辞 荒木義昭常任理事(司会、寺井地区)
OB会会長挨拶 西尾皓史会長
ご来賓の祝辞

和田慎司小松市長(OB会会員)

藤田直樹コマツ執行役員栗津工場長

北瀬利樹コマツユニオン北陸支部執行委員長

ほか栗津工場、金沢工場、特機本部、ユニオン、
わくわくコマツ館代表の出席者を紹介

祝電披露

大橋徹ニコマツ代表取締役社長(兼)CEO

榊原公雄コマツユニオン中央執行委員長

ほか森常務執行役員、浦野執行役員人事部長、
社友会、他工場OB会祝電披露

議長選出 北野邦夫常任理事(美川・川北地区)



第1号議案

- ① 平成27年度行事結果報告
 - ② 平成27年度会計決算報告
 - ③ 平成27年度会計監査報告
- 以上の報告を拍手で承認

第2号議案

① 新役員の承認・退任役員への表彰状・感謝状の贈呈

新任役員

会長 竹田 敏洋

副会長 中本 久治

同 阿木 清隆

常任理事 高田 龍蔵

同 上村 純仁

同 宮浦 勉

同 臼岩 正博

同 山下 豊

同 下出 博明

同 吉村 茂

以上、拍手で承認

地区理事 南 修二(根上)

同 渡辺 徹(湯谷)

同 林 國夫(東陵)

同 菊野 孝雄(荒屋)

同 谷舗 一矢(蓮代寺)

同 上西 恒一(牧)

同 釜本 隆司(稚松)

同 木戸浦 勇(御幸)

同 齊藤 清二(符津)

同 新谷 俊英(栗津)

同 藤元 政孝(矢田野)

同 畑 正廣(山代・山中)

前田副会長より報告、拍手で承認

常任理事について、山田俊昭役員選考委員長より選考結果の報告あり。

新役員を代表して竹田新会長が挨拶。

・退任役員へ表彰状の贈呈

(5期10年以上務め退任の方)

小枝 敬一(東陵)

山田 俊昭(蓮代寺)

大野 友治(矢田野)

・退任役員へ感謝状の贈呈

(3期又は5年以上務め退任の方)

西尾 皓史(国府)

宮崎 紀代二(苗代)

川畑 与明(国府)

村田 真二(根上)

坊田 四十二(御幸)

北村 昭之(牧)

中田 威蔵(栗津)

退任役員を代表して西尾前会長が挨拶。

第3号議案

①平成28年度行事計画について

向井良夫事務局長が提案説明(別掲)

②平成28年度会計予算について

洲崎利圭会計が提案説明(別掲)

以上について、原案通り拍手で承認

閉会の辞 中本久治副会長

平成28年度 行事計画表

区分	行事名	実施日	場所
総会	39回定期総会	4/23	市民センタ
旅行	54回国内旅行	10/25-26	富岡製糸場
	27回海外旅行	10/3-10	北欧
スポーツ	18回グラウンドゴルフ大会	5/18	市民センタ
	16回ゴルフ大会	10/4	小松CC
	16回パーゴルフ大会	9/26	木場潟公園
	ウォーキング遠征	6/7	苗名の滝
	ウォーキング近郊	10月	(検討中)
文化	第4回文化祭	11/23	松風荘
	会誌38号発行	3月	投稿募集
慶弔	米寿・白寿のお祝	11月	対象者宅
	長期重度療養者見舞	6月・11月	介護3以上
	会員・配偶者死亡弔慰	都度	弔慰基準
	39回物故者追悼法要	6/18	紫雲閣
地域貢献	こまつの杜ボランティア	通年	
情報伝達	会報の発行	年4回	全員配布
	ネット活用勉強会	随時	
会員組織	定年退職者説明会	5月・11月	栗工
	新入会員名簿発行	1月	全員配布
	理事会・常任理事会	都度	
	地区連絡会	7/10	松風荘
	地区総会・行事	都度	各地区
対外	他工場OB会交流	都度	
	県退職者連合	都度	

平成28年度 会計予算

収入明細

項目	前年度実績	28年度予算
繰越額	110,720	195,252
会費	5,022,500	4,843,000
入金	76,000	76,000
賛助金	2,200,000	2,200,000
雑収入	372,094	370,000
合計	7,781,314	7,684,252

支出明細

項目	前年度実績	28年度予算
定期総会費	567,318	650,000
地区助成金	970,000	950,000
旅行助成金	26,684	100,000
追悼法要金	386,834	320,000
共済費	1,794,891	1,850,000
会議費	95,537	100,000
会誌発行費	1,236,092	1,050,000
名簿発行費	62,690	50,000
事務局手当費	580,000	580,000
会報発行費	368,010	360,000
通信費	188,809	180,000
地区事務費	211,000	210,000
クラブ活動費	273,121	270,000
地区連絡会議	221,063	220,000
雑費	201,868	200,000
名簿引当金	250,000	300,000
特別積立金	0	0
退職者連合会費	70,000	70,000
文化祭	82,145	80,000
支出合計	7,586,062	7,540,000
次期繰越額	195,252	144,252
合計	7,781,314	7,684,252

特別会計の収支見込み

収入: 名簿積立金 300,000円
支出: 本年度キャビネット購入

こまつの杜における活動の紹介

総会終了後、「わくわくコマツ館」シニアアドバイザーの館山善治氏より、「こまつの杜」における様々な活動について、報告がありました。日頃の御礼と今後のさらなる協力の依頼がありました。またロビーでも紹介コーナーが設けられました。

昼食懇親会

出身職場ごとのテーブルで旧交を温める

この後、小ホールに場所を移し、昼食懇親会を開催しました。

昨年同様今年も出身職場ごとに席について頂くことにしましたが、久しぶりのなつかしい仲間との昼食に話はずんだようです。

総合司会は前田昭則副会長(寺井)が担当。



出身職場ごとの昼食懇親会会場



第三十九回物故者追悼法要

セレモニー式場にて執行する

延べ一千八百三十一名の先輩のご冥福を祈る

期日 平成28年6月18日(土)

午後2時30分

場所 小松市城南町

「サンレー小松紫雲閣」

平成二十八年度の物故者追悼法要は、六月十八日(土)午後二時半から、昨年度亡くなられた七十一名を含む、OB会設立以来の物故会員延べ一千八百三十一名の諸先輩を偲び、厳粛なうちに法要を行いました。

会場は昨年と同様市内のセレモニー式場において行いました。

当日は、ご遺族百四十二名、会社・ユニオン代表のご来賓十名、OB会員四十七名、あわせて百九十九名が参加のもと、菊で飾られた祭壇および両側に並ぶ法名軸、会社・ユニオンから届けられた生花を前に、先人のご冥福をお祈りいたしました。

法要は向井良夫事務局長の司会ではじまり、最初に竹田敏洋OB会会長が挨拶を行い、次にご来賓を代表してコマツ執行役員栗津工場長の藤田直樹様、および、ユニオン北陸支部執行委員長の北瀬利樹様から、ご丁寧なる追悼のご挨拶をいただきました。



また、追悼電報が大橋徹二コマツ代表取締役社長(兼)CEO、榊原公雄コマツユニオン中央

執行委員長ほか各方面から寄せられていることが披露されました。

このあと、市内本折町「本光寺」ご導師様によるお経があげられる中、昨年度亡くなられた方のお名前が読み上げられ、ご遺族がお焼香、続いて参加者全員が順次焼香を行いました。



ご法話のあと、ご遺族を代表し、上小松地区の故釜谷正敏様の長男にあたられる釜谷幸嗣様より謝辞が述べられ、前田昭則OB会副会長の閉会の辞で終了しました。

なお、当日ご多忙の中参列いただいたご来賓は、ご挨拶された二名のほか次の方々でした。
伊藤栗津総務部長、北阪特機製造所長、福田栗津総務部担当部長、森林ユニオン副執行委員長、原ユニオン書記長、加藤栗津総務課長、花田金沢総務課主査、魚岸栗津庶務課員の皆様でした。

国内旅行 通算五十四回

真田丸ドラマ館と

世界遺産 富岡製糸場見学の旅

期日 平成28年10月25日(火)

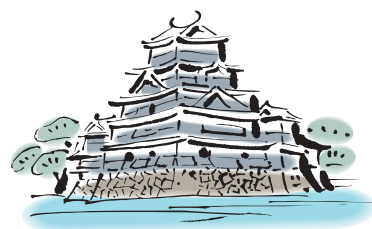
10月26日(水)

行先 生島足島神社参拝・上田城址公園

(真田丸ドラマ館)・磯部温泉泊・
富岡製糸場見学・軽井沢プリンス
ショッピングプラザなど



平成二十八年度の国内旅行には、四十名が参加し、上田城址公園の真田丸ドラマ館・世界遺



産富岡製糸場などを見学してきました。

十月二十五日早朝、大型バス一台で小松を出発した一行は、北陸・上信越高速を順調に走り、きのこ村深山で昼食後、途中生島足島神社を参拝し、午後2時ごろ上田城址公園に到着しました。NHK大河「真田丸」ドラマ館を見学。

この後小諸・松井農園にてリング狩りを楽しむ。この夜は、磯部温泉「磯部ガーデンホテル」にて宿泊。夕食懇親会ではカラオケを楽しみ、一日目の旅の疲れを癒しました。

翌二十六日には、世界遺産の富岡製糸場を見学しました。ガイドさんの案内で東繭置所、検査人館、女工館、首長館などの建物の外観見学のほか、繰糸場の内部を見学した。

明治維新後の、日本近代化の幕開けを象徴する建造物が操業当初のまま残されていることに感銘を受けました。



途中「こんにやくパーク」で工場見学、試食を楽しむ。

昼食後、軽井沢プリンスショッピングプラザへ立ち寄り、お土産などお買い物を楽しみました。

二日間とも天候に恵まれ、午後九時ごろ無事帰途につきました。



ウオーキングの集い

苗名の滝と妙高温温泉郷の自然歩道を歩く

矢田野丘陵地ウオークも実施

期日 平成28年6月7日（火）

場所 苗名の滝と妙高温温泉郷（新潟県）

「日本の滝百選」の一つ、「苗名の滝」（別名：地震滝）から、日本百名山「妙高山」「火打山」を一望できる、妙高高原、池の平温泉自然歩道のウオーキングを実施。

参加者四十一名はバスにて朝六時に小松を出発。素晴らしい晴天に恵まれ、予定通り十時に苗名の滝に到着。



出発点の駐車場で準備体操を行った後、午前十時十五分にスタート。全長8kmに及ぶ自分の体力にあったコースで楽しみました。

●Aコース（8km）…苗名の滝、杉野沢温泉水辺の広場、妙高高原ビジターセンター（昼食）、カフェランドマーク温泉（ゴール）

●Bコース（7km）…苗名の滝、杉野沢温泉水辺の広場、妙高高原ビジターセンター（ゴール）、カフェランドマーク温泉へバスで移動して昼食

●Cコース（3km）…苗名の滝、杉野沢温泉水辺の広場（ゴール）、カフェランドマークへバスで移動して昼食

落差55mの迫力満点の苗名の滝を見た後は妙高高原の自然歩道を歩く。あいにく妙高山は雲で見えないが、森林浴を楽しみながら周りの景色を楽しみました。ゴールのカフェランドマークで入浴して帰路へ。

矢田野丘陵地ウオーク

期日 平成28年10月14日（水）

場所 矢田野丘陵地（林・戸津・栗津・上荒屋・二ツ梨・下栗津町）

今年の近郊ウオークは9名と少ない参加者でしたが、天候にも恵まれ午前九時こまつドーム駐車場を出発。水田の中をしばらく歩いて栗津温泉へ。総湯前で小休憩後、温泉街を抜けてゆのくにの森前から緩やかな丘陵地へ、日本自動車博物館で休憩。この後は矢田野小学校前経由住宅街を経てこまつドームへ。約6kmの歩きやすいコースでした。



平成二十八年 スポーツ・文化・共済・ボランティア 活動報告

第十八回 グラウンドゴルフ大会

- 開催日 5月18日（水）
- 場 所 小松市民センター多目的広場
- 参加者 80名
- 大会成績（4Rスコア）

男性の部

- 優勝 高田龍蔵（根上） 67
- 準優勝 河内国昭（根上） 69
- 第3位 田中祈良志（国府） 72
- 第4位 米田 昇（辰口） 73
- 第5位 工藤正俊（符津） 74

女性の部

- 優勝 水田多津子（御幸） 74
- 準優勝 中村千代子（東陵） 78
- 第3位 北口知子（東陵） 78

ホールインワン賞（指定ホール）

戸井政明・萱森寿治・吉川正雄・田中祈良志
工藤正俊・栗田金次郎・奥村辰司・能登富雄
（以上八名）



第十六回 パークゴルフ大会

- 開催日 9月27日（火）
- 場 所 木場潟公園 メダカコースA/B
- 参加者 53名
- 大会成績（2Rスコア）

男性の部

- 優勝 宮越信夫（符津） 98
- 準優勝 石川順一（大聖寺） 101
- 第3位 中村 捷（御幸） 103
- 第4位 川崎博通（国府） 103
- 第5位 重田広志（月津） 103

女性の部

- 優勝 太田美智子（八幡） 102
- 準優勝 川原フミ（月津） 111
- 第3位 出村ハマ子（荒屋） 113

ホールインワン賞

宮越信夫・川端雄大・増田克己・千葉 繁
益田 孝（以上五名）



第十六回 ゴルフ大会

- 開催日 10月4日（火）
- 場 所 小松カントリークラブ
- 参加者 65名
- 大会成績（Wペリア方式 スコアはネット）

- 優勝 小原光和（金沢） 72・0
- 準優勝 松田行信（苗代） 72・2
- 第3位 中屋和明（中海） 72・6
- 第4位 山田俊昭（苗代） 72・8
- 第5位 前田信行（湯谷） 72・8
- ベストグロス賞 佐竹保之（能美） 78

優勝された小原光和さんは九月に行われる、
コマツシニアオープンのプロアマ戦に出場します。



第四回 文化祭を開催

- 開催日 11月23日(水)
 □場所 コマツ松風荘(小松市木場町)
 □参加者 約七十名

①文化講演会

「武力攻撃や大規模テロなどから

身を守るために」

講師 石川県危機管理室危機対策課

主任主事 家城 亮介氏



②カラオケ大会 出演者14名

最優秀歌唱賞 河村良平(寺井)

優秀歌唱賞 横山信一(上小松)

同 新谷俊英(栗津)

特別賞 山本孝義(国府)

熱演賞 坂下俊一(国府)

審査委員5名で審査(委員長 杉田 登氏)



③囲碁大会 参加者12名

Aグループ優勝 中谷秀夫(山代山中)

同 準優勝 中野昭彦(東陵)

同 第3位 堂道剋良(犬丸)

同 第4位 北口邦男(符津)

Bグループ優勝 中西文雄(寺井)

同 準優勝 宮崎与志嗣(大聖寺)

同 第3位 西尾皓史(国府)

同 第4位 山 勝三(東陵)

④将棋大会 参加者16名

Aグループ優勝 堀川一成(月津)

同 準優勝 柴田忠雄(福井)

同 第3位 宮川 満(松任)

同 第4位 宮崎紀代二(苗代)

Bグループ優勝 山岸勝昭(稚松)

同 準優勝 村田真二(根上)

同 第3位 松本 譲(国府)

同 第4位 鶴賀伸夫(芦城)

大会要領とともに、段級位によりA・Bグループに分け、予選を戦った結果、成績上位4名の決勝

トーナメントで順位を決定



⑤折り紙教室

講師 中村 博氏(松任)

参加者 前田昭則氏(寺井)

10名



米寿のお祝い

平成28年めでたく米寿を迎えられた昭和三年(1928年)生れの35名の方々にお祝をお届けしました。(写真 13頁〜15頁)

村井幸雄(金沢)、王生米作(松任)
 福益昭三(根上)、新川貞一(根上)
 吉田 茂(根上)、西 源治(寺井)
 樋爪方正(湯谷)、西田貞雄(湯谷)
 山下忠一(国府)、川本正芳(国府)

萩本昭三（国府）、宮向忠治（国府）
谷口 博（中海）、平野 久（東陵）
竹田 進（犬丸）、西田 勉（犬丸）
井上重一（上小松）、吉田昭久（上小松）
川田利男（牧）、吉田昭三（稚松）
杉浦辰雄（上本折）、浅井 清（今江）
前山四郎（今江）、西村義雄（御幸）
又多寿一（月津）、加藤辰夫（符津）
山本和雄（符津）、桶田 萃（符津）
中村富弥（栗津）、太田昌秀（矢田野）
山内与一（矢田野）、世川俊春（動橋）
前島英美男（大聖寺）、友影正一（福井）
伊藤一郎（福井）

長期重度療養者へのお見舞い

3ヶ月以上に亘り療養し、且つ介護度3以上と認定された方にお見舞いを差し上げました。

平成28年上期 5名、下期 6名

亡くなられた方への弔慰

平成28年4月～29年2月末日までに亡くなられた方は次の通りで、弔慰基準に基づき弔慰を表しました。

・会員本人の死亡 78名

お香典（一万円）、生花一基、弔電、OB会旗を掲出し、地区代表が弔問しました。
会社からは、社長名の弔電、工場長または事業所長名の生花をいただきました。

・会員配偶者の死亡 9名

お香典、弔電、地区代表が弔問しました。

・追悼法要の執行

OB会設立以来、平成28年3月までの物故会員1831名の追悼法要を6月執行しました。（別掲）

県退職者連合グラウンドゴルフ大会

□開催日 9月14日（水）

□場 所 金沢市民芸術村広場

□参加者 コマツから5組25名（全200名）

□大会結果

団体 3位（Cチーム）、個人 3位 宮越信夫

里山保全に竹林間伐ボランティア

石川県退職者連合が行う里山保全活動の一環として、加賀市橋立自然公園に増えてくる竹林の間伐作業ボランティアに、今年度も参加しました。（春と秋の2回）

①4月27日（水）

大聖寺地区会員と本部役員を含め、14名が参加した。

②11月1日（水）

春と同じく15名が参加した。



こまつの杜ボランティア活動

こまつの杜が開設されて6年目をむかえ、すでに延べ30万人を超える方が入園されています。

OB会では、次の4つの部会に分かれてボランティア活動を行っております。

●コマツ館スクスク教室部会

コマツ館2階の教室にて、小学生を対象に理科その他の学習、夏休みの宿題の手伝いを通じ、理科や物づくりへの興味を抱くきっかけとなるカリキュラムを作り実行。

●里山イベント部会

里山の木々、草花、小川などの自然観察を通して、こどもたちが自然に興味、関心を持ち、自然の中で遊ぶ楽しさを感じさせるようなイベントを企画し実行。

●里山グリーン部会

里山、広場、小川ゾーンでの小川清掃・落葉回収などの清掃ボランティア、および、花壇の手入れ、季節の花植えボランティアなど交代で作業にあたる。「花育」を開始。

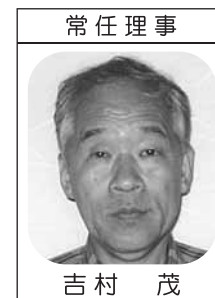
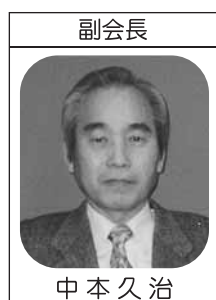
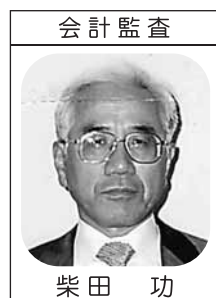
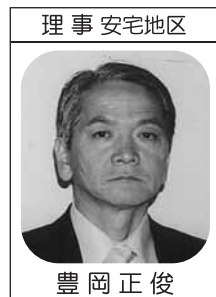
●サポート部会

超大型ダンプトラック930E、ミニ油圧ショベルの試乗をはじめ、来館者やイベントなど、こまつの杜やわくわくコマツ館運営のサポートを行う。

こまつの杜OBボランティア 募集中！

新たにボランティア参加いただける方は、地区役員・委員に希望部会をお申し出下さい。

平成28年度 OB会役員の紹介



大聖寺地区理事 上村純仁が兼務
那谷地区理事 山下 豊が兼務

平成28年度 OB会役員の紹介

理事 湯谷地区



渡辺 徹

理事 寺井地区



河村良平

理事 根上地区



南 修二

理事 美川北地区



平野松雄

理事 松任地区



野田正記

理事 犬丸地区



今西和夫

理事 能美地区



竹内吉昭

理事 東陵地区



林 國夫

理事 中海地区



吉田米蔵

理事 国府地区



山本孝義

理事 蓮代寺地区



谷鋪一矢

理事 苗代地区



新谷信秀

理事 松東地区



小倉政信

理事 上小松地区



中村正文

理事 八幡地区



岡田宗利

理事 今江地区



高橋 他二郎

理事 向本折地区



小枝俊弘

理事 芦城地区



豊岡外輝男

理事 稚松地区



釜本隆司

理事 牧 地区



上西恒一

理事 山代山中地区



畑 正廣

理事 矢田野地区



藤元政孝

理事 粟津地区



新谷俊英

理事 符津地区



斉藤清二

理事 月津地区



高橋政一

婦人部副部長



谷口光恵

婦人部副部長



谷口礼子

婦人部部長



福井ひろみ

理事 福井地区



谷川 栄

理事 動橋地区



村口 滋

コマツ栗津工場OB会 会誌第38号 総合目次

表 題	地 区	氏 名	頁
巻頭のご挨拶	OB会会長	竹田 敏洋	1
第39回定期総会を開催：行事計画・予算・新役員などを決定			2
第39回物故者追悼法要 セレモニー式場で執行			4
国内旅行：真田丸ドラマ館と世界遺産 富岡製糸場見学の旅			5
ウォーキングの集い：苗名の滝と妙高温泉郷の自然歩道を歩く			6
スポーツ・文化・共済・ボランティア活動報告			7
平成28年度 OB会役員の紹介			10
会誌38号 総合目次			12
米寿の皆さん おめでとうございます			13
平成28年度 行事フォト・ハイライト			16
地区活動 フォトメモリー	各地区		18
こまつの杜OBボランティア活動報告			25
竹林伐採ボランティアに参加して	寺井地区	前田 昭則	31
折り紙科学の最前線	松任地区	中村 博	32
しあわせは	矢田野地区	松田 靖雄	34
我が生き立ちの記 私の履歴書（5）	東稜地区	小枝 敬一	34
私の尺八人生	大聖寺地区	前嶋 英美男	37
駅伝 その3	寺井地区	本多 政明	38
“マイプレス物語” 発刊に寄て	符津地区	北野 正敏	39
ふるさと歴史版 旧栗津中学	矢田野地区	早松 隆昌	40
嗚呼 道下幸助さん逝く（二）	辰口地区	永山 純夫	41
プライバシー侵害を受けての批評・評論	向本折地区	小枝 俊弘	44
コマツOBゴルフ同好会の紹介	蓮代寺地区	山田 俊昭	47
【資料】小松製作所栗津工場OB会規約			48
編集後記、次号原稿募集、発行者			50
表紙「苗名の滝」 表紙の裏に説明文			
裏表紙の裏「コスタ・ビクトリア号」			
裏表紙「北米のユーザーへ」			

米寿の皆さん おめでとうございます

平成28年に88歳の米寿を迎えられた35名の皆様には、心からお祝いを申し上げます。



根上 福益 昭三さんご夫妻



松任 王生 米作さん
(H28. 12. 29ご逝去)



金沢 村井 幸雄さん



寺井 西 源治さん



根上 吉田 茂さんご夫妻



根上 新川 貞一さん
(H29. 2. 28ご逝去)



国府 山下 忠一さんご夫妻



湯谷 西田 貞男さんご夫妻



湯谷 樋爪 広正さん



国府 宮向 忠治さん



国府 萩本 昭三さんご夫妻



国府 川本 正芳さんご夫妻

昭和3年(1928)のできごと

- ◎ 野口英世博士アフリカ・ガーナにて黄熱病で死亡
- ◎ 張作霖爆殺事件
- ◎ ラジオ体操放送開始、大相撲実況放送開始
- ◎ 昭和天皇即位大礼



犬丸 竹田 進さんご夫妻



東陵 平野 久さん



中海 谷口 博さんご夫妻



上小松 吉田 昭久さん



上小松 井上 重一さんご夫妻



犬丸 西田 勉さんご夫妻



向本折 杉浦 辰雄さん



稚松 吉田 昭三さんご夫妻



牧 川田 利男さん



御幸 西村 義雄さんご夫妻



今江 前山 四郎さん



今江 浅井 清さん



符津 山本 和雄さんご夫妻



符津 加藤 辰夫さんご夫妻



月津 又田 寿一さん



矢田野 太田 昌秀さんご夫妻



粟津 中村 富弥さん
(H29. 2. 15ご逝去)



符津 桶田 萃さん



大聖寺 前島英美男さんご夫妻



動橋 世川 俊春さんご夫妻



矢田野 山内 与一さん



福井 伊藤 一郎さん



福井 友影 正一さん

平成28年度行事フォト・ハイライト

第39回定期総会 H28.4.23(土) 小松市民センター



和田市長、藤田工場長など来賓の皆さん



参加された多くの会員の皆さん



久しぶりの再会・昼食懇親会



受付会場にて

第39回物故者追悼法要 H28.6.18(土) サンレー小松紫雲閣



来賓の皆さん



参列者全員で焼香



ご遺族の皆さん



ご遺族の皆さん

平成28年度行事フォト・ハイライト

第4回文化祭 H28.11.23(水) 松風荘



熱戦（囲碁大会）



文化講演会



熱唱（カラオケ大会）



熱戦（将棋大会）



折り紙教室

真田丸ドラマ館と世界遺産富岡製糸場見学の旅 H28.10.25(火)～26(水)



上田城址公園



真田丸ドラマ館



小諸でリンゴ狩り



富岡製糸場見学



富岡製糸場見学



富岡製糸場見学

苗名の滝ウオーキング H28.6.7(火)



苗名の滝に向かう



妙高高原を歩く

地区活動 フォトメモリー



根上地区 グラウンドゴルフ大会

H28.11.12 翠ヶ丘グラウンドゴルフ場 38名(男30、女8)

一週間前の天気予報では、雨降りの予定でしたが、大会当日は晴天で、着ていた上着も脱ぐような暖かい日となり、和気あいあいと楽しく過ごすことができました。

成績は次の通り。

優勝	米久	清一
2位	米田	清忠
3位	吉田	茂

報告 南 修二



寺井・湯谷地区 カラオケ親睦会

H28.8.20(土) 大長野町「花と蝶Ⅱ」 18名

コマツOB会 寺井・湯谷地区総会で決められた、カラオケ親睦会が開催された。18名の出席で午後1時～4時の3時間カラオケで楽しい時間を過ごしました。

最高齢の倉橋さん(93歳)の上手な歌声に大声援でした。またデュエットも楽しみました。

報告 河村 良平



国府地区 総会

H28.3.26 国府公民館 51名

H28年度の総会が51名参加のもと盛大に開催された。元雄会長の挨拶、出戸市議会議員の来賓挨拶のあと、H27年度の活動報告、会計報告の承認、H28年度の新役員、活動計画、予算の承認で閉会しました。その後西尾OB会会長のOB会の現状について講演を頂いた。懇親会では、お楽しみ抽選会でも盛り上がり無事閉会できました。

報告 山本 孝義



寺井・湯谷地区 グラウンドゴルフ大会

H28.9.30 泉台グラウンドゴルフ場 19名

寺井地区・湯谷地区合同のグラウンドゴルフ大会が、19名の出席で午前9時～11時半の2時間半、秋晴れのグリーン上でホールインワンを目指して27ホールの楽しい時間を過ごしました。成績は下記のとおり。

◎チャンピオングループ

優勝 武田 邦雄(湯谷)
2位 松本好太郎(末寺)
3位 川崎 高盛(新保)

◎レギュラーグループ

優勝 大西 正(牛島)
2位 宮崎 勲(佐野)
3位 伊野 儀明(末信)

報告 河村 良平

地区活動 フォトメモリー



中海地区 総会

H28.3.5 赤穂谷温泉 17名

総会では、H27年度の経過報告と会計報告を行う。地区委員、理事は本年度と同メンバーで進めることで承認を受ける。

懇親会では出席者最先輩の山田幸雄さんの発声で乾杯して開始。和やかで楽しいひと時を過ごしました。最後は南外志夫さんに締めてもらい、総会を終えました。

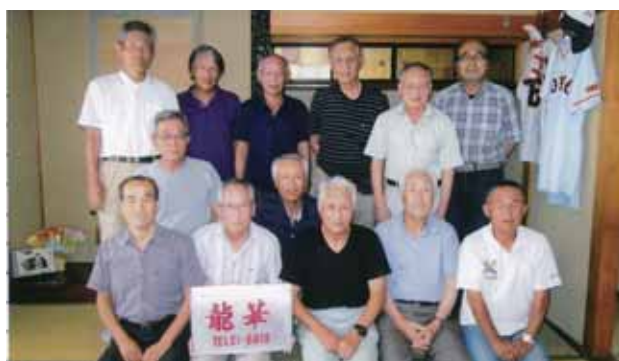
報告 吉田 米蔵

犬丸地区 総会

H28.3.5 南月(大川町) 10名

- ①会員異動の報告 物故退会3名 42→39名となった
- ②28年度役員を決定 地区理事; 今西和夫
地区委員; 高橋 進(城北・大島)、林 潔(蛭川)
中村武司(犬丸・松梨)、今西和夫(島田・梯)
- ③H27年度会計報告

報告 今西 和夫



能美地区 総会

H28.7.9 龍華(一針町) 16名

能美地区初めての総会でしたので、自己紹介から始まり、和やかに親睦をはかることができました。

次回は更に多くの方々の参加を願うとともに、再会を約束して散会しました。

報告 竹内 吉昭

国府地区 遊泉寺銅山跡公園 清掃ボランティア

H28.8.6
OB会員有志 25名

鶴川、遊泉寺、立明寺の3町の有志の方々と合同で、記念碑周りの草刈りと草むしりを早朝より行い快い汗をかきました。



国府地区 グラウンドゴルフ大会

H28.5.21 里川町グラウンドゴルフ場 47名(男36、女11)

男性の部 優勝 横山 実、2位 林 司郎、3位 北村明雄、4位 田中祈良志、5位 川崎博通
女性の部 優勝 南 友子、2位 竹村豊子
3位 北村紀代美

報告 山本 孝義



東陵地区 総会

H28.6.12 東陵会館 24名

物故者に対する黙祷、吉村地区会長の挨拶、小枝相談役による乾杯、入退会者の紹介、役員交代の確認挨拶があり懇親会へ。会員相互に近況報告、不参加者の安否確認などを行いました。山崎地区委員によるメの万歳三唱で閉会。本部総会のDVDを視聴しました。

報告 林 國夫

地区活動 フォトメモリー



苗代地区 総会		
H28.3.12	居酒屋どん吉(吉竹町)	18名
H27年度総会を兼ねて懇親会を開催しました。18名の参加とやや少ないですが、全員の年齢が上がり、新会員の入会が少なく、やむをえない事かと思えます。途中和田市長の出席もあり、昔話と市政についてと皆さんの親睦は深まり、充実した時間を過ごされました。 報告 新谷 信秀		



上小松地区 総会		
H28. 3.31	松風荘	18名
久しぶりに松風荘で地区の懇親会を開催しました。当日都合で出席出来ない人もいましたが参加された方々に感謝です。女性2名と和田市長も参加され、市長からは小松市の現況報告があり、吉田昭久氏の乾杯の音頭で始まり、その後ラウンジでカラオケ。自慢のノドを披露し、時間の過ぎるのを忘れ、大いに盛り上がりました。 報告 中村 正文		



蓮代寺地区 総会		
H28.3.6	松風荘	11名
3月上旬としては大変暖かい日に11名参加のもと蓮代寺地区OB会総会・親睦会が行われました。総会後の会食時、こまつの杜、栗工の話、先輩の方々の消息など大いに話がはずみました。会員の方々が高齢となり少しずつ参加者が減少しますが、それでも一度栗津工場を見学したい。金沢工場を含めて見学の計画をして欲しいと要望がありました。 報告 山田 俊昭		



松東地区 総会		
H28.3.24	松風荘	18名
総会：H27年度に亡くなられた会員及び会員のご令室を報告し、ご冥福をお祈りしました。H27年度経過報告、会計報告及びH28年度の役員案を報告し、承認された。また新会員2名が入会され、このうち1名が地区初の女性会員となりました。 懇親会：女性会員が参加したことで会場が大いに盛り上がり、またカラオケでも美声を張り上げる中で親交を深めることができました。 報告 小倉 政信		

地区活動 フォトメモリー



稚松地区 総会		
H28.3.27	松任町公民館	20名
総会ではH27年度活動報告、新年度計画ならびに世話人の選出について、承認されました。 引き続き、懇親会では紅一点の乾杯の音頭に始まり、会員相互の親睦を深め、更にビンゴゲームと久方ぶりのカラオケで楽しく過ごしました。 報告 釜本 隆司		



安宅地区 総会		
H28.4.10	安宅町シルクビート	11名
27年度地区活動報告及び会計報告、安宅町ボランティア活動で梯川両岸一斉清掃、県主催安宅海岸(草野方面)松苗植樹に参加、コマツ里山ボランティア参加等報告し、懇親会に入った。安宅地区貢献のため安宅町で開催。当日は元気な会員11名で、盛大に楽しく歓談が出来た。会員が近くで生活しているが、話し合いの場の機会があまりなく、いろんな話が出来て非常に楽しい時間を過ごした。次回まで元気で過ごすことを誓い合い終了した。 報告 豊岡 正俊		



芦城地区 総会		
H28. 5. 28	なかの	11名
報告 豊岡外輝男		



牧地区 総会		
H28.1.17	グリーンホテル	12名
和田小松市長を招き、市政の現状について理解を深めまた、個々のライフスタイルなどを語り合い、楽しいひと時を過ごしました。決算報告、理事交代を決議し解散した。 報告 北村 昭之		

地区活動 フォトメモリー



栗津地区 懇親会

H28.11.11 吉田水産(栗津町) 16名

今年2回目の行事として、地区懇親会を開催しました。地区理事の挨拶、地区委員の自己紹介があり、次に会計報告とこまつの杜ボランティア入会の説明が行われた。山本光栄さんの乾杯の音頭で親睦会が始まり、お酒を酌み交わしながら話が弾みました。久しぶりの開催で初めて顔を合わす人もおられましたが、酒が進むにつれてコマツで勤めていた時の思い出話や定年後の近況などに話が弾み、時間の経つのを忘れる程でした。最後に福引を行い、西田さんの一本メで開きとしました。

報告 新谷 俊英



向本折地区 総会

H28.3.6 松風荘 9名

総会では①H27年度行事活動報告、②会員異動(逝去2名;ご冥福を祈り黙祷、入退会者なし)③米寿祝該当者3名、④H27年度会計報告(中間)⑤H28年度地区理事、地区委員の原案を承認。①～⑤の分会総会を終えて、引続き懇親会に移り、現役時代の思い出や近況を語り合い親睦を深め、最後はラウンジのカラオケで、愛好会員の美声が一層盛り上がり、21:00に解散終了しました。

報告 小枝 俊弘

栗津地区 坂本竹次郎追悼展と足跡ウォーク

H28.6.11 滝ヶ原町里山自然学校 30数名

坂本竹次郎さんは、明治4年に江沼郡那谷村字滝ヶ原で生まれ、明治23年に兄の與佐門を頼って北海道に渡る当時開拓を志して北海道に渡った石川県人も多くいたとのこと。石狩地区の造林業でキコリとして働き、その後千歳御料材の伐採を始め幾多の苦難に立ち向かい、事業を成功させ郷里に錦を飾った人物です。郷土史家の花木幹史氏の講演を聞いた後、全員で坂本氏が残された丸竹橋や石像等を見学しながら、散策し交流を深めました。昼食は地元の方々が心込めた柿の葉寿司、旬の野菜を使った煮物等を頂きながら歓談した。OB会の活動として11月に懇親会を開き、盛り上げて行こうと確認して散会した。

報告 新谷 俊英



御幸地区 総会

H28.3.5 くら魚(今江町) 21名

総会前に、亡くなった3名の他、過去に亡くなった先輩諸氏のご冥福を祈り黙祷を捧げた。総会ではH27年度会計決算報告の後、H28年度新役員を選出。懇親会では和田市長も特別参加され、懇親会も盛り上り、時間延長して参加者全員和やかな雰囲気の中で楽しい時間を過ごした。

報告 臼岩 正博

地区活動 フォトメモリー



大聖寺地区 総会		
H28.5.14	料亭「山ざき」(大聖寺)	17名
総会の初めにH27年度中に逝去された会員3名、配偶者1名のご冥福を祈り黙祷を捧げた。第39回定期総会の報告に続き、H27年度地区経過報告では、新会員2名の紹介、橋立自然公園竹林伐採、地区委員会の討議、会計収支の報告、承認を行いました。 懇親会は、当会場の「山ざき」より永年利用の感謝を込めて赤飯のプレゼントがあり、現況報告、カラオケで盛り上がりました。 報告 上村 純仁		



動橋地区 総会		
H28.3.28	片山津温泉 ホテル森本	11名
年1回の総会を案内しましたが、45名中11名の参加者のみとなり参加者の出席が課題となっています。その中で地区の重鎮である世川俊春氏(88歳)が参加され、貴重なご意見を頂き、懇親会が大変盛り上がりしました。 今年は横山義雄史が入会され、今後の活躍が期待されます。 報告 村口 滋		



大聖寺地区 竹林伐採ボランティア		
H28.4.27	加賀市橋立町「橋立自然公園」	
石川県退職者連合主催の社会貢献・環境保全活動の一環として、「豊かな里山作り・保全ボランティア活動」の竹林伐採に今年も14名参加しました。今回は立ち枯れた竹のみを伐採しました。今年は竹の子が豊作で、たくさん頂き、ある人は近所や親戚にお裾分けしたそうです。 なお11月1日にも秋の竹林伐採ボランティアが行われ15名参加しました。 報告 上村 純仁		



動橋地区 コンサートの集い		
H28.8.28	ホテル アローレ	18名
当地区会は年1回の総会での懇親会を主としています。が本年は会員家族も含めての繋がりを図る目的でコンサートにお呼びしました。当日はコーヒー券を発行し、コンサート会場でコーヒーを飲みながらゆっくりとした時間を過ごしていただきました。ご家族を含め18名の会員及びご家族の方がご来場され、欧州各地で公演している山内達哉クワルテットのバイオリンと尺八の和洋コラボレーションの響きを堪能しました。 報告 村口 滋		

地区活動 フォトメモリー



那谷地区 総会

H28.1.29 もみじ食堂(那谷町) 7名

今年は重鎮の町出さんがあいにくの欠席で、7名の出席でしたが、皆さん元気で開催された。昨年のOB会活動報告の後、会計報告が行われ懇親会に移った。校下の石文化の発信、お互いの近況や社会の情勢など話が弾み盛会の内に散会した。

報告 山下 豊



福井地区 総会

H28.3.4 あわら温泉 美松 5名

福井県内各地より5名参加いただきました。人数は例年の半数と少なかったのですが、夜遅くまで会員動向や各自の近況など話がつきませんでした。来年の再会を期して散会としました。

報告 谷川 栄



日帰り入浴と昼食&観劇

H28.11.9 大江戸温泉 ながやま 20名

国府分会では、毎年恒例の日帰りの入浴、昼食と観劇に行ってきました。入浴はリフレッシュ、昼食は海の幸で舌つづみ、観劇は目の保養と内外からエネルギーをもらいました。それより懐かしい人との語り合いながら、大いに親睦を深めてきました。

報告 山本 孝義

こまつの杜 OB ボランティア活動 2016年度 活動状況報告 (2016年1月～2016年12月)

コマツ栗津工場OB会 特定非営利活動法人 みどりのこまつスクスク会

こまつの杜 来園者状況



ボランティア4部会 登録人数



OBボランティア参加者人数



OBボランティア参加者 年代別人数



4 部会 活動

部会

1. スクスク教室部会
2. 里山イベント部会
3. 里山グリーン部会
4. こまつの杜サポート部会

部会長

中山 善博
吉田 晋
宮川 忠彦
荒木 義昭

1. スクスク教室部会 部会長：中山 善博



2016年度活動計画（実績は11/E現在）

合計63回

項目	対象	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	計画
理科教室	小学3～6年	8回	15回	4回	→	12回
わくわくコマツ塾	小学5、6年	→	15回	→	→	30回
わくわくサイエンス	保育園児	→	2回	→	→	12回
出前教室	学・夏・他 (小学1～3年)	→	5回	→	3回	8回
社会科見学	小学5年生	→	4回	→	6回	10回
5年間の挑戦 スチール コンクリート (出前)	小学4～6年	→	→	→	→	2回
カンボジア 理科教室	コナラ小学校 (1～6年)	→	→	→	→	1回
夏休み・冬休 み支援教室	→	→	→	→	→	4回
コマツ館行事	幼児 ～小学生	→	→	→	→	3回
おしごと体験 (モノづくり)	小学3～6年 (出前)	→	→	→	→	1回

わくわくコマツ塾

活動の狙い

理科教室に参加して、子供達の幅広い学習の場として、自主的に課題を見つけて解決する「アクティブラーニング」の一助になることを目指す。
①子供たちが疑問を持ち考えるきっかけとなる場を提供する。
②子供たちが持った疑問を解決し、より理解するための支援。
③最後に、子供たちが体験・学習したことをまとめ、発表する場の提供。

テーマ名

①砂鉄で字はう(受講生3名)
②理科電池(受講生3名)

開講式



父兄への説明会

受講生6名とその父兄
及び講師陣

スケジュール

3/26 5/17 7/2～活動期間～3/28
父兄への 説明 開講式 発表会
説明会 締め切り 2テーマ各10回授業

わくわくコマツ塾



黒崎海岸で山砂鉄の採取

黒崎海岸の砂鉄

見学してわかった事、疑問
などを受講生が記入している



見学先から買って来たものをみんなで話し合う

黒崎工場でパイプの仕組みを聞く

コマツ塾 砂鉄で字はう

講師：橋本講師 ■尾小黒山山資料館 9月3日



山本さんが個人で採取されたたくさんの鉱物の中から、特に砂鉄に関係のある石を中心に、3人の塾生の疑問に親物を見せながらわかりやすく説明していただきました。

コマツ塾 砂鉄で字はう



出前教室 ①モノづくり体感スタジアム(■新宿NSビル) 7月31日
②ハチラボ(■渋谷区児童科学センター) 8月 1日



油圧ショベルはバランスが命

司会：浅井

講師：橋本

KOMATSU

体感スタジアム

体感スタジアム

体感スタジアム

体感スタジアム

体感スタジアム

体感スタジアム

体感スタジアム

体感スタジアム

体感スタジアム

体感スタジアム

体感スタジアム

体感スタジアム

体感スタジアム

体感スタジアム

体感スタジアム

出前教室 ①モノづくり体感スタジアム(■新宿NSビル) 7月31日
②ハチラボ(■渋谷区児童科学センター) 8月 1日



組み立て作業中

パイプ遊び競争中

渋谷区児童科学センター
ハチラボにて

30度傾斜登り競争中

バランス練習中

7名の受講生も挑戦！！

小松市こども♪おしごとたいけん(こども鑄物教室)

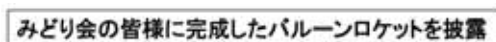
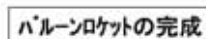
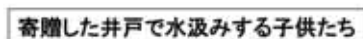
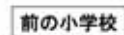
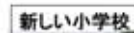
■小松市民センター 11月20日



小松市こども♪おしことたいけん(こども購物教室)



カンボジア理科教室（9/11～16）



2. 里山イベント部会 部会長：吉田 晋



里山イベント部会 活動計画

活動事例	4～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
① カブトムシ飼育チーム	カブトムシの幼虫観察会	カブトムシの成虫観察会	カブトムシの成虫観察会	
② きのこと里山観察チーム	きのこと里山観察会	きのこと里山観察会	きのこと里山観察会	
③ 畑づくりチーム	畑づくりの準備	畑づくりの準備	畑づくりの準備	
④ ホタル飼育チーム	ホタルの幼虫観察会	ホタルの幼虫観察会	ホタルの幼虫観察会	
⑤ かわしの遊びモノづくりチーム	かわしの遊びモノづくり	かわしの遊びモノづくり	かわしの遊びモノづくり	
⑥ 米づくりチーム	米づくりの準備	米づくりの準備	米づくりの準備	
⑦ 里山イベント部会 地域との交流	里山イベント部会 地域との交流	里山イベント部会 地域との交流	里山イベント部会 地域との交流	

活動事例

① カブトムシ飼育チーム

カブトムシの幼虫観察会 5/14



カブトムシの成虫観察会 7/28



② きのこと里山観察チーム

葉っぱの観察会と畑づくり 6/4



里山きのご教室 12/3



活動事例

③ 畑づくりチーム

さつまいもの苗と
ひまわりの種植え 5/13



ひまわりの選別と播種 7/16



さつまいもの収穫 9/9

④ ホタル飼育チーム

【3年連続ホタル誕生】



ホタルの幼虫観察 7/28



ホタルの幼虫観察と放流 9/22・11/24



活動事例

【食育活動】あおば保育園児と協同で活動

⑤ 米づくりチーム

稲刈りと稲藁かけ 9/30



脱穀 10/12



しめ縄作り 11/15・18・22・12/2



もち作り 12/14



活動事例

⑥ かわしの遊びモノづくりチーム

門松作り 12/20



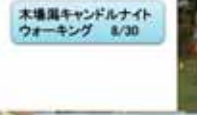
90cmには高さ
2.1m以上の大門松



活動事例

⑦ 地域との交流

木場周キャンデルナイト
ウォーキング 8/30



滝ヶ原里まなび山あそび出展 11/8



活動事例

5周年記念事業

かしロード(9/18～10/24)



5年後の自分へ手紙を出そう
(9/20～10/22)



かしコンクール (9/22)



第1位 里山イベント部会



第2位 白鷺幼稚園



第3位 あおば保育園



3. 里山グリーン部会 部会長：宮川 忠彦



里山グリーン部会 活動計画

体制	4～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
里山の清掃 10～16G (男性中心 10グループ)	芝生広場と通路清掃 里山の草むしり 池の藻取り 堆肥作りと処理 3月15日～11月4日 毎週火曜日・金曜日 8:30～10:30 11回(20人×4回)(40人×7回) トータル60回 (20人・回→140回 40人・回→280回)			
花壇づくり 花育チーム 17G (女性1グループ) * 男性有志	7月～9月 サマータイム導入(希望者) 火曜日・金曜日 7:00～9:00 トータル4回			
レイズドベッド づくり プロジェクト 三森 グループ長	5/18 こまつ育成園にレイズドベッド寄贈 → 6/20 福祉施設(高齢者、ひらて)に花植え →			

里山グリーン部会 清掃活動



里山グリーン部会 清掃活動



花育活動 活動計画

	2016年 3月	4～6月	7月～9月	10月～12月	2017年 1月～3月
こまつの社における 花育活動	1月 芝の植栽と定 花の植栽入 必要商品の買い出し 農具購入 花壇デザイン	4/12(土) 4/22(土) 5/13(土) 5/20(土) 5/27(土) 6/3(土) 6/10(土) 6/17(土) 6/24(土) 7/1(土) 7/8(土) 7/15(土) 7/22(土) 7/29(土) 8/5(土) 8/12(土) 8/19(土) 8/26(土) 9/2(土) 9/9(土) 9/16(土) 9/23(土) 9/30(土) 10/7(土) 10/14(土) 10/21(土) 10/28(土) 11/4(土) 11/11(土) 11/18(土) 11/25(土) 12/2(土) 12/9(土) 12/16(土) 12/23(土) 12/30(土)	10/7(土) 10/14(土) 10/21(土) 10/28(土) 11/4(土) 11/11(土) 11/18(土) 11/25(土) 12/2(土) 12/9(土) 12/16(土) 12/23(土) 12/30(土)	12/7(土) 12/14(土) 12/21(土) 12/28(土) 1/4(土) 1/11(土) 1/18(土) 1/25(土) 2/1(土) 2/8(土) 2/15(土) 2/22(土) 2/29(土) 3/6(土) 3/13(土) 3/20(土) 3/27(土) 4/3(土) 4/10(土) 4/17(土) 4/24(土) 5/1(土) 5/8(土) 5/15(土) 5/22(土) 5/29(土) 6/5(土) 6/12(土) 6/19(土) 6/26(土) 7/3(土) 7/10(土) 7/17(土) 7/24(土) 7/31(土) 8/7(土) 8/14(土) 8/21(土) 8/28(土) 9/4(土) 9/11(土) 9/18(土) 9/25(土) 10/2(土) 10/9(土) 10/16(土) 10/23(土) 10/30(土) 11/6(土) 11/13(土) 11/20(土) 11/27(土) 12/4(土) 12/11(土) 12/18(土) 12/25(土)	12/7(土) 12/14(土) 12/21(土) 12/28(土) 1/4(土) 1/11(土) 1/18(土) 1/25(土) 2/1(土) 2/8(土) 2/15(土) 2/22(土) 2/29(土) 3/6(土) 3/13(土) 3/20(土) 3/27(土) 4/3(土) 4/10(土) 4/17(土) 4/24(土) 5/1(土) 5/8(土) 5/15(土) 5/22(土) 5/29(土) 6/5(土) 6/12(土) 6/19(土) 6/26(土) 7/3(土) 7/10(土) 7/17(土) 7/24(土) 7/31(土) 8/7(土) 8/14(土) 8/21(土) 8/28(土) 9/4(土) 9/11(土) 9/18(土) 9/25(土) 10/2(土) 10/9(土) 10/16(土) 10/23(土) 10/30(土) 11/6(土) 11/13(土) 11/20(土) 11/27(土) 12/4(土) 12/11(土) 12/18(土) 12/25(土)
コマツ06と 給食園との 花育活動	3/20(土) コマツ06と給食園 近所活動の観察園 地開き活動	4/14(土) 4/21(土) 4/28(土) 5/5(土) 5/12(土) 5/19(土) 5/26(土) 6/2(土) 6/9(土) 6/16(土) 6/23(土) 6/30(土) 7/7(土) 7/14(土) 7/21(土) 7/28(土) 8/4(土) 8/11(土) 8/18(土) 8/25(土) 9/1(土) 9/8(土) 9/15(土) 9/22(土) 9/29(土) 10/6(土) 10/13(土) 10/20(土) 10/27(土) 11/3(土) 11/10(土) 11/17(土) 11/24(土) 12/1(土) 12/8(土) 12/15(土) 12/22(土) 12/29(土)	10/7(土) 10/14(土) 10/21(土) 10/28(土) 11/4(土) 11/11(土) 11/18(土) 11/25(土) 12/2(土) 12/9(土) 12/16(土) 12/23(土) 12/30(土)	12/7(土) 12/14(土) 12/21(土) 12/28(土) 1/4(土) 1/11(土) 1/18(土) 1/25(土) 2/1(土) 2/8(土) 2/15(土) 2/22(土) 2/29(土) 3/6(土) 3/13(土) 3/20(土) 3/27(土) 4/3(土) 4/10(土) 4/17(土) 4/24(土) 5/1(土) 5/8(土) 5/15(土) 5/22(土) 5/29(土) 6/5(土) 6/12(土) 6/19(土) 6/26(土) 7/3(土) 7/10(土) 7/17(土) 7/24(土) 7/31(土) 8/7(土) 8/14(土) 8/21(土) 8/28(土) 9/4(土) 9/11(土) 9/18(土) 9/25(土) 10/2(土) 10/9(土) 10/16(土) 10/23(土) 10/30(土) 11/6(土) 11/13(土) 11/20(土) 11/27(土) 12/4(土) 12/11(土) 12/18(土) 12/25(土)	12/7(土) 12/14(土) 12/21(土) 12/28(土) 1/4(土) 1/11(土) 1/18(土) 1/25(土) 2/1(土) 2/8(土) 2/15(土) 2/22(土) 2/29(土) 3/6(土) 3/13(土) 3/20(土) 3/27(土) 4/3(土) 4/10(土) 4/17(土) 4/24(土) 5/1(土) 5/8(土) 5/15(土) 5/22(土) 5/29(土) 6/5(土) 6/12(土) 6/19(土) 6/26(土) 7/3(土) 7/10(土) 7/17(土) 7/24(土) 7/31(土) 8/7(土) 8/14(土) 8/21(土) 8/28(土) 9/4(土) 9/11(土) 9/18(土) 9/25(土) 10/2(土) 10/9(土) 10/16(土) 10/23(土) 10/30(土) 11/6(土) 11/13(土) 11/20(土) 11/27(土) 12/4(土) 12/11(土) 12/18(土) 12/25(土)



花育活動



花育活動



4. こまつの杜サポート部会 部会長：荒木 義昭



活動内容

(1) 930Eの運転席試乗
(開館日の午前と午後／各種イベント開催時)



活動内容

(2) ミニショベル(PC09)の操作体験
(水・土曜日の午後／各種イベント開催時)



活動内容

(3) 幼児向け紙芝居・人形劇



コマツ塾 砂鉄でまなぼう

講師：堀本 達郎 尾小瀬 誠山資料館 9月3日



山本さんが個人で採取されたたくさんの鉱物の中から、特に砂鉄に関係のある石を中心に、3人の塾生の疑問に視物を見せながらわかり易く説明していただきました。



930E、ミニショベルの試乗者数



「わくわく建機まつり(5/4)」でお客様をサポート



OG人形劇



竹林伐採ボランティアに

参加して

寺井地区 前田昭則



毎年春と秋2回実施される県退職者連盟主催の社会貢献・環境保全活動の一環として、「豊かな里山づくり保全ボランティア活動」が、加賀市橋立地区の自然公園内にある竹林伐採と倒木処理が今年も実施されました。昨春秋は身体の不具合で参加出来なく春はぜひ参加したいと心待ちにしていました。数日前の天気予報では5月27日は雨との事で心配していましたが当日は天候も上々で伐採日和に恵まれました。参加者は全員で35名のうちコマツOBの参加者は14名でした。

私が竹林ボランティアに参加する最大の理由の一つは、昔の仲間に会える事です。今回も大聖寺地区の皆さん11名が参加されて居られ、集合時間の9時30分前からワイワイガヤガヤ話に花が咲きました。先輩お早うございます、お会いするのは何年ぶりですか、2年ぶりや、元気で何より、幾つに成られましたか、83歳に成ったわ、今日着て居られる作

業服も、金玉マークや松葉マークのふた昔前の懐かしい作業服姿である。現役時代一緒に仕事をしていた同僚の浜野君から、今日のボランティア橋立地区から3名しか出席出来ないやあ、前田さんの知っている通称「寛チャン」も昨年奥さんを亡くしてから元気がなくなつて、今日も病院へ健診結果を聞きに行つていて欠席やと、今日顔が見えない旧知の仲間の近況を知らせてくれる。9時前に現地に到着したにも関わらず、仲間と旧交を温めていると、あつと言う間に作業開始の時刻になる。

竹林伐採や倒木処理の場所は、出身会社毎に担当場所が決められて居り作業に掛かる竹は一か月に1〜1.5m成長するそうで枯れるのも早く竹林の中は倒木で大変な状況である、運搬のできる大きさに鋸で切断し道路脇まで運び山積にする。伐採は枯れて倒木前の竹を根元より鋸で切りこれも運搬出来る大きさに切断し運び出す、重労働で直ぐバテル、安全第一、掛け声掛けながら、何回でも休憩を取りながら、昔話をしながら、タケノコを掘りながら、和気あいあいと作業を進める。11時30分の作業終了時間があつと言う間に来る。無事作業も終わり、自分たちで掘り起こしたタケノコをお土産に、好きな量だけ持って、元の集合場所に戻る。参加者全員で記念写真を撮りながら、次回会う日を約束し、解散する。

帰り際は、南出さんから船を替えたから見てくださいと誘われ漁港へ行くと、これまでより

一回り大きい船が係留されている。彼は現役時代から自分の持ち船で漁をしており何度か「いか漁」に連れて行つて貰っているの昔の船は良く知っている。どうした、こんな立派な船、実は漁中、船をぶつけられ船も破損したが、自分自身も脊椎骨折の大怪我をし、動けるように成るまで一年以上掛かったこの事。安全第一を考え、大きい船に変えたこの事。船の中を見せてもらう、さすがコマツマン、船内は整理整頓されピカピカ、現役時代の腕を生かし、エンジン・発電機の整備等部品交換は全て自分で実施、仲間の船まで面倒見ているとの事、約1時間近、近況を話し合

いお互いの健康を誓い別れる。

竹林ボランティアのお蔭で、今回も、めったにお目に掛かれない、大聖寺地区や橋立地区の大先輩や同僚仲間と、短い時間でしたが、一緒に汗を流すことが出来、話をしながら元氣を一杯貰いました。大聖寺地区のOBの皆さんありがとうございました。又次回元氣に会いましょう。



竹林伐採ボランティアに参加した皆さん

「折り紙科学の最前線」

三谷純先生の計算折り紙に挑戦
(平面が作る球体・立体ふしぎ折り紙)

松任地区 中村 博



2015年11月8日北陸先端科学大学院
大学主催のJAISTシンポジウム2015「折り紙の科学」を聴講する機会に出会い、折り紙に対する新しい知識を得ました。シンポジウムで得た新しい手法と、それに挑戦した作品の一部を紹介したいと思います。

「折り紙」は英語でもオリガミ(Ori-gami)としてそのまま通用する国際語で、オリガミ・サイエンスは現代科学の最先端です。折り紙の技術は科学からアートまで、多くの分野で使われています。紙をまっすぐ折るのが「オリガミ」だという思い込みからいったん離れてみましょう。曲線に沿って折ったり、金属を折ったりすると、どうなるでしょう。そこには驚きの世界がまっています。最先端のオリガミ(Ori-gami)をお楽しみ下さい。とのことで、講演会と別会場の作品展示(球体・曲線立体折り紙作品他)でした。

※講演会のProgramは

★ 学長挨拶 浅野哲夫

(北陸先端科学技術大学院大学学長)

★ 特別講演

「ミウラ折りーそれは何に使えるか？」

講師 三浦公亮氏

(東京大学およびJAXA宇宙科学研究
所名誉教授)

★ パネルディスカッション

「折り紙科学の最前線」

パネリスト 三谷純氏

(筑波大学システム情報系教授)

テーマ「計算折り紙とアート」

パネリスト 館知宏氏

(東京大学大学院総合文化研究科助教)

テーマ「かたくてやわらかい折り紙

構造」

コーディネーター 上原隆平

(北陸先端大情報科学研究科教授)

★ ワークショップ

「テンプレートで作るミウラ折り」

※講師およびパネリストの話の概要は

○ 講師 三浦公亮氏

「ミウラ折りーそれは何に使えるか？」

「ミウラ折り」は私がNASA(米航空宇宙局)に勤めていた1967年ごろに考案しました。太陽電池パネルの様な大きな平面を簡単に展開する方法としてです。すぐに宇宙開発には採用されませんでした。が、イタリア

のオリベッティ社が関心をもち、この折り方によるベニスの地図を出版してくれました。

80年に日本で国際宇宙航行会議が開かれたとき、私はその地図を配り、大きな平面を展開しやすいこの折り方が、将来の宇宙開発ミッションには絶対必要だと提案し注目されました。「ミウラ折り」の名は、欧米のメディアにこのときの一連の記事がでたことによります。実際に使用されるまでには時間がかかり、95年の宇宙実験・観測フリーフライヤで、太陽電池パネルとして搭載されました。宇宙で展開・収納した後、スペースシャトルが回収し、今は東京の国立科学博物館で閉じた状態で展示されています。

○ パネリスト 三谷純氏

テーマ「計算折り紙とアート」

コンピュータグラフィック(CG)を専門とする私から見て、折り紙は日本の文化、アートであるとともに、幾何学だともいえます。幾何学は図形を点と線、面で考える学問であり、線の集合で形が作られるからです。平面の紙に山折り・谷折りの線を引き、その線を折った結果として形が出来るわけで、「折り紙の展開図や折り線」は重要な要素です。そこにコンピュータを使えば、もっと正確にできるだろうというところで考え出されたのが「計算折り紙」です。普通、折り紙は直線と多角形で構成されます。では曲面は出来ないだろうか、と言う疑問が、私が折り紙に興味を持つきっかけになったことです。それは簡単に

はできません。しかし、丸いキャンディを包んでいる包み紙は、平面なのに曲面になっていますね。このように一定のシワを作れば、平面の紙から曲面を作れます。コンピュータを使うことで、できないと思われる形を作ることができるのです。

私自身折り紙学会に所属して多くの作品に触れています。それらをCGで処理することでアートの世界も広がります。最先端の技術に、折り紙で役に立てればと思います。

○パネリスト 館知宏氏

テーマ「かたくてやわらかい折り紙構造」

紙は一般に、曲げたり折ったりできても伸び縮みはしません。ですから「複曲面」（二方向に曲がった曲面）は作れないとされています。ところが折り紙はこの原則からちよつと逸脱しています。紙で作った円筒を左右から押すと中央付近に菱型の折れ目を起こして変形します。（吉村パターンと言われています）

物理学的に「座屈」という現象です。

紙は座屈現象を起こすことで、あらゆる曲面に形を変えます。求める局面に応じた折り方を手作業で求めるのは大変ですが、私が作ったソフトウェア「オリガマイザ」は、CGで作成した3次元の立体を処理することで、折り方のパターンを作ってくれます。細かい三角形、四角形の集合に折り目を加えてどんな曲面も作ることが出来ます。折りたためるけれど伸び縮みしない紙の性質を突き詰める

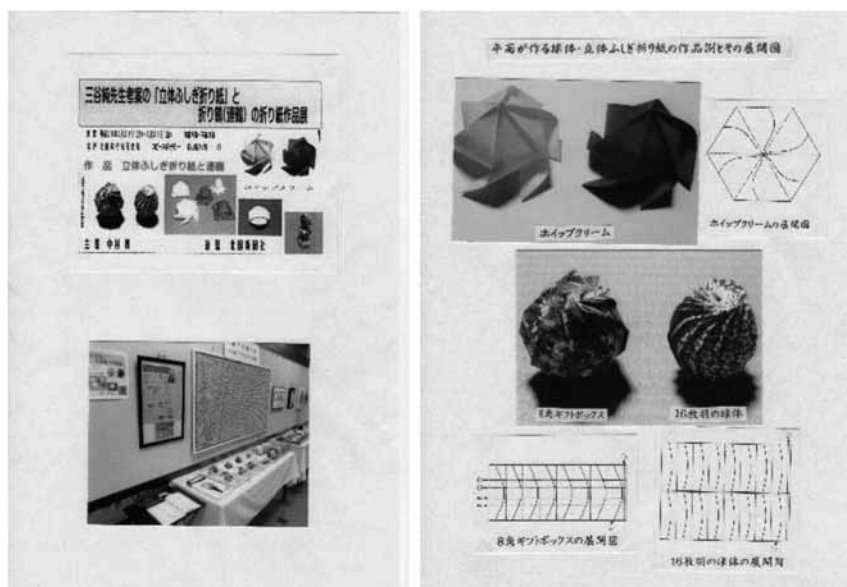
と、ある方向には強く変形しないのに、別の方向から押すと小さく折りたためる、といった条件を満たす構造が作れます。今までにないものの提供が可能でイノベーションへつながると考えています。

※「ミウラ折り」と「三谷純先生の計算折り紙」に挑戦



白山市内の作品展での著者

会場でのワークショップでテンプレートを使つてのミウラ折りに挑戦し、習得できました。講演終了後、三谷純先生の教本「立体ふしぎ折り紙」を購入、立体折り紙に挑戦し44作品をメインに今年3月白山市内で折り紙作品展を開催しました。



しあわせは

矢田野地区 松田靖雄



しあわせは、いつも自分の心がきめる。
その時、自分ならば、どうする。

あなたがそこにいるだけで、その場の空気があかるくなる。

あなたがそこにいるだけで、みんなの心が安らぐ、そんなあなたにわたしもなりたい。

なんでもいいからさ、本気でやってごらん、本気でやれば楽しいから、本気でやれば、つかれないから、つかれても、つかれてもつかれがさわやかだから。

長い人生にはなあ、どんなに避けようとしても、どうしても通らなければならぬ道というものがあるんだな、そんな時はその道を黙って歩くことだな、愚痴や弱音を吐かないでな、黙って歩くんだよ、ただ黙って、涙なんか見せちゃダメだぜ。

そしてなあ、その時なんだよ、人間としての命の根が、ふかくなるのは。

セトモノとセトモノとぶつかりつこすると、すぐこわれちゃう、どっちかやわからなければ、大丈夫。

やわらかい心を持ちましょう。
そういう私はいつもセトモノ。

あなたにめぐりあえて本当によかった。一人でもいい、心からそう言ってくれる人があれば。

一生勉強。一生青春。南無阿弥陀仏、声は一つに味二つ、親の喚ぶ声、子の慕う声。



我が生い立ちの記

わたしの履歴書（5）

東陵地区 小枝敬一



Ⅱ 現場・夜学・組合・A対策の青春Ⅱ

（昭和27年～昭和37年の10年間の軌跡）

1、プロローグ

日本は昭和26年9月4日にサンフランシスコ講和条約に調印。10月には国会承認となった。いわゆる「単独講和」による戦後日本の世界への再登場に国内は騒然となっていた。国論は左右に分かれ、あらゆる分野で、国の在り方を巡る論議が沸騰、青年・学生・労働者層は激しい論争と、実力行動を繰り返していた。私は社会情勢やジャーナリズムに対して、当時中学生ながら関心があり、周りの大人に議論を吹っかけていたことを思いだす。昭和27年3月、小松市立芦城中学校を卒業し、小松製作所栗津工場への採用通知を胸に、16歳にして実社会の荒波へと船出。狂瀾怒濤の青春前期を過ごすことになる。

2、入社式

入社式の日には雨模様だった。母親の作ってくれた心尽くしの弁当と筆記用具を入れたカバンを持ち自転車、符津町の栗津工場へと必死でペダルを漕いでいた。小松駅から栗津駅へ向かう通勤列車に、乗り遅れたのである。昭和27年度の「中・高校卒定期採用者」の入社式は、組立工場の裏にあった「重役室」で行われており、式はすでに始まっていた。三井田誠二専務（工場長）が訓示で述べた際の「ノーモア廣島」の言葉が印象に残った。当時どのような文脈で話されたか、いまとなつては判然としないが、入社式参加者からは、意外だとの声が聞かれた。当時の私はコマツが前年の大火により、経営が危機にあるとは知るすべもない16歳の少年だった。

3、工科学校の教室にショック

式が終わり「工科学校生徒組」は、検査部分析室前の工科学校の教室（元機械工場の仮眠所）に案内され、これからの学校・職場生活のオリエンテーションを受けた。説明会場の教室は、天井からは砂ほこりが舞い、足元はコンクリートのむき出し状態と云うより土間に近かった。元の工科青年学校（通称青建物）は、総合事務所として、使用されており、工科学校の存続が経営の足枷かせとなるという考えが上層部にあり、学校に対する予算は極限まで絞られていた。しかしその一方で、竹内明太郎が創設した「企業内中堅幹部の人材養成」の教育機関はなんとしても残すべき

との根強い意見があったことを、後年知らされる。企業人生の門出が痛恨の「入社式遅刻」からはじまり、期待していた「工科学校」の実態を目の当たりに見て、大いなるショックを感じた。以後「会合には決して遅れてはならない」の教訓と、「乗りかかった船は運命だ」との思いで、長い人生を歩むことになった。

4、夜間高校への道

工場での勤務が終わると、栗津から通勤列車に乗り小松駅で降りる、駅前から県立小松城南高校までは、徒歩で西町の自宅には寄らず、土居原町、地子町、浜田町を経由して桜木町にあった学校まで、ひたすら早歩きで歩いた。ゆっくり歩くと一限目が遅刻となりかねないのである。昼間の疲れが、ドット出てよく居眠りをしたものである。

普通科を選んだのは、必ずしも進学を意識したわけではなく、なんとなく高等学校に対する勝手な思い込みがあり、「読書と教養が身につけば良い」との思いであり、今どきの高校生ならば腰を抜きそうな認識だった。家庭の事情で進学校へは行けなかったが、友達への対抗心もあってか、仕事の役に立つ勉強など考えていなかった。

5、夜学の仲間たち

昭和20年代は、小松でも青年団活動が盛んで、ユニークな演劇活動等が、農村部などで活発だった。これらは占領軍の政策とも、よい意味で関係しており、民主的な雰囲気のない

かで青年男女の交際の方も広がっていた。金沢では、旧制第四高等学校を中心とする学生運動や、労組青年婦人部のサークル活動などが、内灘闘争など共に盛んに新聞紙上に報じられていた。東京などでは若い根っこの会がたくましく集い、歌声喫茶は、若者のたちの連帯の場であった。中学時代の先輩が、東京の大学に入り、ノンポリと自称はしていたが、盛んに寮生活や学生運動について、帰郷の際われわれに話してくれた。夜間高校生ながら「うらやましく思った。そして「インターナショナル」や「世界学連のうた」を共に得意がってうたったことが懐かしい。勉強よりも生徒会活動や、文芸部の機関誌「青い葦」の編集、そして映画や音楽の好きなクラスメートとの交流が何とも楽しかった。文芸部の顧問の先生も若く、あの時代の定時制は、年齢の幅もあり、旧制中学の中退組のなかには、先生よりも年上の猛者もいた。

6、労組の青年部活動へ

組立工場の職場から、工科学校3年生（ほとんど現場）のときに、組合支部大会代議員に推され、組合に足を突っ込んだ。一方労働組合では、政党支持が分かれ、組織内で社会党、共産党との勢力争いが激しかった。官公労もそうだが、民間労組では政党支持の関係は複雑だったようである。当時のコマツ労組内の役委員の選出は年功序列的要素が多く、また職場の利益代表的要素も強く、他組合等と比べると、理念にもとづく労組活動とは言

えない状況が散見された。百日闘争の歴史を持ち、共産党の組合干渉に手を焼いていた執行部としては、政党がらみの青年婦人部の活動に極めて消極的だった。組合役委員ではなくとも、労働組合のことを勉強したい人や、またレクレーションや文化活動を通じて、仲間との連帯を図りたい若い男女組合員がたくさんいた時代だった。

7、国際民主社会主義青年同盟（iusy）

昭和30年代半ばのコマツでは、労組中央委員長の政界進出が、取り沙汰されており、社内には労使協調ムードが漂っていた。その結果、青年婦人活動に従来消極的だった支部執行部は、一転してその活動を容認、むしろ推奨する状況となった。そうした中、昭和35年1月には、中道路線を標榜した国民政党として、非マルクス主義の社会主義政党である「民主社会党（略称民社党）」の誕生を見るのであるが、民社の唱導する生産性向上運動と労使協働の理念は、広く民間労組の共有するところとなり、コマツ労組の中で青年組合員に一定の支持を集めていた。当時の私は、石川県民主社会主義青年連合の結成に参画し、加南地区協議会長に就任していた。昭和39年の春、国際民主社会主義青年同盟（iusy）主催のアジアセミナーが、鎌倉市で開催された際には、民社青連からの推薦で、日本代表団の一員に選ばれ、青年学生運動にのめり込んでいった。後にも先にもない、唯一度の「国際会議」出席の経験がその後の活動の基礎とな

ったように思う。

8、工場現場での思い出（A対策巡回サービス員の頃）

入社10年目の頃、コマツは米国キャタピラ社の日本上陸に対して、どう迎え撃つかという真剣な空気が、工場現場に漲っていた。当時私は、栗工の工作第二課に所属して、ブルドーザのトランスミッションの組み立てを担当していた。ベテラン・中堅・新人でチームを組み、ライン化以前の置き組生産の時代だった。ミッションは号機管理をされており、自分の組み立てたものが客先でトラブルの起きないように、常に緊張感を持って仕事に励んでいた。

昭和37年にA対策の実験車が96台製作され、そのうちの90台は、ユーザーに引き渡され、実作業に使用してもらい、各種のデータ収集に当たることになっていた。専任のサービスマンのみでは、到底データ収集は対応できず、各事業所の中堅若手社員を特別巡回サービスマンとして編成して、全国各地のユーザー先に派遣することになった。私に白羽の矢が当たり、担当区域は、大阪支社管内の京都・滋賀・奈良・和歌山の4府県となり、駐在の拠点は、滋賀県八日市のコマツ代理店「滋賀重機整備工業（株）」と決まった。

着任の挨拶に事務所を訪問した際、土建屋特有の匂いと、眼光鋭い国寄専務の「コマツさんには、お世話になっております。特別調査は大切ですが、建設業者は車両止めれば死

活問題で、クレームのないよう願います。」のきつい一発は、今も耳に残る。

アシストに大卒青年社員のA君を付けてもらい、各地を回り、3週間に及ぶ時間を共にした。季節は5月ごろだったと思うが、やたらと雨の日が多く、びしょ濡れの作業が続いたのを記憶している。その代り天気の日には、時間が有り昼休みなどには、A君と映画のひとと、文学のこと、恋愛のこと、職場の悩み等を同時代人として、意気投合して語り合った。

職場の仕事と組合の仕事が重なり、両立がだんだん難しくなってきた時期にあり、現場では中堅社員として、新人を教育しつつ、自身のキャリアアップにも努めねばならず、一方、組合活動・政治活動のほうも責任が重くなりつつあり、家庭的にも結婚問題もあり、ハムレットの心境になったりもした。そして、この年の翌年の昭和38年10月15日に谷口花子と結婚することになるのである。風の便りではA君も同じ年に結婚したようであった。

9、エピソード

わたしの青春前期は、昭和27年4月（コマツ入社）から昭和38年10月（結婚）の10年間で相当する。この時期は私が最も「輝いていた時代」だったのではないかと、と近頃追走するようになった。本年私は「傘寿」を迎えた。

振り返ると「コマツ」との出会いが、私の人生にとってこれほどまでの影響を、及ぼすことになろうとは夢想も出来なかった。平成8年に企業定年を迎えたが、退職後の嘱託期

間及び、「労働金庫」と「ユニオン」「OB会」の期間を加えれば、「コマツ」とのご縁は、60有余年となるが、良いご縁をいただいたと思っている昨今である。



①対策サービス員の頃
(栗津工場 旧重役室前)
昭和37年 26才



労組大会で運動方針を
提案する書記長時代
昭和43年 32才



労組青年部の頃
(栗津工場正門スト決行中のビケ)
昭和35年 24才



夜学生の頃(放課後)
昭和30年 城南高校3年
19才

「私の尺八人生」

大聖寺地区 前嶋英美男



私の尺八経歴の一端と、尺八を始めた動機を申し上げます。

昭和二十二年の春頃、当時の日本は戦争に敗れ、日本の国内は食料難と戦地からの引き揚げ復員軍人、また、一般引き揚げ者で国内はごった返しておりました。

その頃、私はコマツの栗津工場に勤めていました。昼休みにどこからか尺八の音が聞こえてきました。工場内にひびく何ともいえない哀愁を帯びた音色に心うたれ、尺八の門をたたくことになりました。私は友人の紹介で、旧大聖寺町役場へ勤めておられた尺八の吹奏者「長谷川澄雨山」先生の家へ行きご指導を受ける事になりました。先生にはとてもきびしく熱心にご指導を戴き、そのおかげで尺八本来の本曲、箏曲の吹奏法を習い、初傳、中傳、奥傳、階傳、准師範、師範、大師範、竹琳軒大師範を中尾都山宗家より、のれん分けをして戴きました。

民謡は昭和三十三年頃から全国各地、市町村までの飛躍的なブームとなってきました。

その頃、風呂屋さんの湯丹の中で素晴らしい江差追分を唄う氷見山さんに出会いました。当時我が大聖寺にも、北海道出身の彼がリーダーとなり、四、五人が集まり、民謡を唄い楽しんでいる所へ私も仲間入りし、尺八ができるということでした。私の尺八の伴奏で江差追分、小諸馬子唄等を楽しく唄い始めましたのが私の民謡尺八伴奏の切っ掛けとなりました。

昭和六十二年の武道館での全国民謡大会では、あまりに大きな舞台で足がふるえました。私の尺八伴奏の能登舟こぎ唄が日本一となり、平成三年にも両国国技館での全国民謡大会で日本一になりました。

はじめてから四十余年になりましたが、民謡の尺八はあくまで、私は趣味のまた趣味として、これからも体調の許す限り、老骨に鞭を打ち、頑張つて尺八を吹きたいと思っております。



都山流竹琳軒冠称昇格披露
平成4年 11月 8日

【尺八】

日本の代表的な縦笛。今日使用されている尺八は、五孔の節、タケ製、標管長一尺八寸で、尺八の名称はこの長さによる。

駅伝（その三）

白山と手取川

寺井地区 本多政明



前号に続いて駅伝その三を投稿させていただきます。平成28年は昭和91年です。

手取川一周駅伝の発端は手取川大水害の事柄からです。その為大水害の事を記したいと思います。昭和9年（1934）7月11日朝手取川大洪水が発生した。

昭和9年の大水害から今年は82周年です。ある資料によると7月10日と11日の2日間での降水量は白峰村白峰の観測所で466mm、尾口村女原で459mmの降雨量であった。

白山主峰の御前峰（2702m）、大汝峰（2684m）、剣ヶ峰（2656m）の3峰はこの年の冬は大雪で梅雨期になる迄、低温傾向が続いた為、白山の谷合には大量の雪が残っていた。梅雨期で気温が急上昇した為、集中豪雨に融雪量が加わり大水害となった。手取川の支流「宮谷川」から大土石流となり、押し流されて来た「百万貫」の巨石（高さ16m、巾23m、重さ百万貫（4800t））あると

言う事で「百万貫の岩」と名付けられ、石川県指定の天然記念物となっている。（手取川の川底に定着しているとの事）

この地は江戸時代には幕府直轄領「天領白山麓18村」であった。

明治時代に牛首など四村は白峰村に、女原など九村は尾口村に、新保など五村は新丸村になり。水害発生時の昭和9年当時の能美郡は、小松、安宅、根上、寺井野の4町に牧、板津、白江、苗代、御幸、栗津、白峰、尾口、鳥越、湊、中海、金野、西尾、大杉谷、新丸、国府、吉田、栗生、久常、山上、川北、の21ヶ村、合計25町村の大能美郡であった。

被害状況は死者47人、行方不明15人、負傷者35人、流失家屋172戸・・・等の大惨事でした。

手取川は総延長78km県内最大の一級河川となり、湯谷川と宮谷川を併せて牛首川となり尾添川と合流し、更に大日川などの支流を合わせて大河となっている。

昭和15年12月1日（1940年、別称皇紀2600年）に小松、安宅の2町と牧、板津、白江、苗代、御幸、栗津の6村が能美郡より分離合併して独立、新生小松市（県内では金沢、七尾に次いで3番目、全国で176番目の市）となった。

昭和21年11月10日大能美郡連合青年団が結成され、更に手取川水害の再発防止PRの為、能美郡連合青年団が主体（川北団が中心となり）「手取川改修促進駅伝競走大会を実施した。

川北村を発着点、6区間40・2km、優勝は河北郡英田村青年団（現津幡町）でタイムは2時間30分50秒であった。以来今日迄ずっと手取川一周駅伝大会が実施されている。

今年平成28年11月13日（日）は65回記念大会として開催されている。

これらの事により現在手取川大洪水の再発防止の為、昭和44年には「大日川ダム」更に昭和55年には手取川ダム（当時ロックフィルダムでは東洋一の規模であったと言われる）の完成により、その後は大水害に合う事もなく大変結構な事だと思っています。これからも大水害の発生のない事を祈っています。

「参考文献」

手取川開発期成会発行誌

手取川一周駅伝40回記念大会誌（H3、11/17）

北國、北陸中日新聞の記事

いしかわの史跡めぐり

小松市青年団史（S51、5/30）



”マイプレス物語”

発刊に寄て

符津地区 北野正敏



昨年、コマツ産機事業90周年記念として、表記”マイプレス物語”が発刊された。コマツがマイプレスを国産化するに当たって冷間鍛造金型の技術を持つことは不可欠であった。プレス設計者の中から、課長含めて4人の技術者が金型設計担当の指名を受けた。その中の一人であった二十歳の北野は最若手で、その後金型設計をライフワークとする事になる。鋼材を鋼材で粘土細工の様に常温で鍛造する金型は驚異的な技術であった。雌型に当たるダイスは焼嵌めされ、大きな内圧に耐える様、また断面変化の大きい所は分割され、成形中の大きな圧力の元でも隙間が少なくなる様工夫した。雄型に当たるパンチは断面変化の大きい所は大きなRで結び上面の圧力受けのプレートに均等な面圧がかかるような工夫をした。

材料と金型が直接触れる所はラップ仕上げ、鏡面とし、流れの一定の所はヌスミ、摩擦係

数”0”になるようにした。これらは全てマイ社の図面を参考とした。自動車工具のソケットレンチ等は代表的な製品であった。

他の3人は退社、転勤などで数年以内にコマツの金型業務から離れる。ここにコマツの冷間鍛造金型の中興の祖となる竹本喜道さんが阪大の留学を終え塑性技術課の課長として赴任。社内外から大学院卒の優秀な人材等を集めて業務を開始する。私は金型設計の若干の経験から、その人らの育成を担当し、金型設計学校の”校長先生”と揶揄され、忙しい日々を送る。

金型設計業務の中で、”工程解析”と言うのは大きな比重を占め、(”マイプレス物語”38ページ)どんな素材からどんな工程で所望の製品形状が得られるかを示す計画書で大切な仕事である。



工程解析表の実例

冷間鍛造(常温)と熱間鍛造(1200℃)の中間(700℃)で鍛造加工を行う温間鍛造は、後にこの研究で博士とされる湯浅紘二さんの理論を基に温間鍛造金型の開発を進め、冷間鍛造では難しい難加工材の多くのプレスラインを納入する事になる。

この後、ブラジルの冷鍛工場フリオペサスに派遣され、その立ち上げに苦労するが、

試作より量産化がいかに難しいかを痛感する。



コマツマイプレス
1号機

”マイプレス物語”と言う本の発行により、私の現役時代の一端を紹介するチャンスを得た? 75歳、後期高齢者元年、最後の”あがき”である。

コマツ産機が今後もプレスを開発、製造、販売して行く上で塑性加工技術、金型設計技術はそのソフトとして、不可欠であろう?



2015年4月11日コマツ松風荘
「マイプレス物語」座談会開催

マイプレス物語発刊に当たり

元コマツ取締役産機事業本部長鈴木康夫さん
コマツ専務執行役員 生産本部長 産機事業
管掌 高橋良定さんに深謝申し上げます。

ふるさと歴史版

旧粟津中学

矢田野地区 早松隆昌



廃校の粟津中学校の思い出

昭和二十二年四月新学制発足し、符津、粟津、木場小学校が、粟津中学校へ入学する。(以後栗中とする)

栗中は、当時学校は俣小松製作所粟津工場総合事務所を借りていた。私達は昭和二十六年四月入学で、入学式は二階で行なわれた。昔の木造事務所で一階の人口右側に職員室があった。運動場は事務所前広場を使った。体育館は当然なかった。私達は入学式の後は分教場へ移った。当時の矢崎町の独身寮二階建(現在スーパーマルエ駐車場)辺りでした。二、三年生は工場内と分かれ、教室は押入があり、そこに黒板が掛っていた。周辺は社宅地内で、体育の時間は社宅内の道路を走ったものです。一年はABC組があつて、A組東達雄先生、B組橋爪和雄先生、C組宮本花子先生でした。

四月二十六日、五年目で栗中校歌が出来た。

歌手の岡本敏郎さんが来校された。作詞は教頭先生の蕪城正芳先生、作曲は今井松雄さん、全校生徒の前で校歌を指導された。

昭和二十五年から栗中新校舎が津波倉町で建設が着工され、昭和二十六年六月末に完工する。矢崎町の分教場から、自分のイスを持って行った事が苦しかったが、新しい校舎で勉強にスポーツが、出来る楽しみが、又二、三年生とも、色々と遊んだ思い出がなつかしい・・・。

運動場も広く、体操の時間はゆっくり出来た。符津、粟津、木場の中心地辺りになるので、通学時間も今まで遠かった馬場町や牧口、日用、白山田の人達も随分近くなった。通学は徒歩で、病気の人数だけ保健の先生に許可をもらって、バスに乗ったと聞いています。ある女性の方より、「コザポウシ」に下駄(高下駄)で通学していたが、寒くなつた頃雨靴を買ってもらった。うれしくてねむれなかったと思ひ出を語ってくれた。又、登下校時に、先生と栗津駅まで一緒に、お話をしながら歩いた事がなつかしいと、今はそんなコミユニケーションもなくなりつつあると思う。遠足は一年生は富士写ヶ岳、二年は鞍掛山へ山登りでした。

二年になると進学コースと、就職コースと勉強が変わってきた。

英語は進学コースの人が受けて、他の人は男は農業コースといつて学校周辺の田圃で米作りで、女性は家庭科で和洋裁を習った。尚、一年生だけ全員英語の時間があつた。十五人

位進学され、大学へは七、八人位進学したようです。(百八人中)。二年生頃より野球、ソフトボール、バレーボール、相撲等すこしずつやるようになり、野球は加賀四温泉中学校対抗試合があつた。二年の時、栗中が石川県中学校相撲大会で優勝した。バレーボールも対外試合をしていたようです。ソフトボールも流行していた。まだグローブやミットもなく、素手でやっていたが、三年生に負けられないような試合をしたように思う。

三年の修学旅行は関西方面三泊四日で京都二泊、奈良一泊で楽しい思い出がある。一年の時転校して京都へ行かれた樋掛美津枝さん(旧姓中田)が旅館まで来て頂き二年ぶりに再会し女の人達もうれしかったと思う。石川県中学校相撲大会は前年優勝し、三年生は応援に栗津から小松まで汽車で、小松より安宅の浜まで往復歩いたものです。

選手は木下邦宏、道願尚、山下新一郎君が出場、三選手は頑張つて準優勝まで進出した。応援団は土山君で声をからして応援した。丸の内中学と芦城中学が友情応援してくれてとてもうれしかったと、木下君が話してくれた。体育館の工事もこの年より始まり、卒業前には完成した。わずかの期間(三月の始め頃から)使用した。

中学時代に体育館が出来、少しですが体育館を使用したと思います、道願尚君、寺田勝代さんが小松市健康優良児になりました。三年はA、B組で湊健次、北村孝次先生が担任でした。

進学された方、就職された方、道はそれぞれでしたが、各方面で活躍された人、又、現役で現在も頑張っている方もいます。

私達の学年は、とても仲良く、二、三年毎に同窓会を温泉でやっています。平成元年六月二十四日には、栗津温泉で、蕪城正芳先生をお招きして、校歌を歌いました。来年は十二回目の予定です。皆さん六十才を過ぎると、二年毎に逢いたいと言っています。今は誰も歌わない栗津中学校校歌を皆さんと声高らかに歌います。

尚、昭和三十三年九月一日に南部地区の月津・矢田野・那谷・栗津の四中学校が市内で最初の統合中学校小松市立南部中学校として誕生した。栗中は三十四年三月まで分教所となっていた。廃校となった校舎は北陸大谷高校が数年間使っていたが、新築され移転し、その後(株)コマツが小松工業専門学校となった。現在は、(株)コマツの技能の実習所として今も当時（五十年前）のままに残っています。

※ 私達は昭和二十八年卒業なので、会の名前を栗中二八（ニツパチ）会とした。今回19回栗中二八会が平成28年10月16日行いました。県外3名（女性）も出席され、33才から78才まで45年間やりました。【詳細別紙】

あともう一回80才で20回、2年後の予定。写真は私が全て保存しているので、出席者の皆さんに見せながら楽しい宴会に、栗中二八会は宴会はクジ引きで、男、女、別々にして、

どちらかに異性が座るようにして、話しながら、子供の頃の事や就職↓定年後の事等楽しい宴会になりました。

栗中二八会 同窓会の歩み

回数	開催年月日	場 所	参加者			御出席頂いた先生
			男子	女子	合計	
1	S47年1月15日	栗津温泉 こいずみ	27	14	41	
2	S50年1月25日	山代温泉 ペこや	26	20	46	北村、宮本
3	S52年3月19日	栗津 のどや	25	14	39	
4	S55年6月28日	片山津 北陸国際H	24	25	49	中村、湊
5	S58年6月25日	栗津温泉 法師	26	26	52	中野
6	S61年6月28日	栗津温泉 はしもと	29	29	58	北村、中村、東
7	H1年6月24日	栗津温泉 グランドH	24	19	43	蕪城、北村
8	H4年6月20日	栗津温泉 雲井	24	20	44	北村、中村、宮本
9	H7年9月23日	富山県 大枚温泉	22	13	35	
10	H10年11月21日	栗津温泉 かめたに	21	21	42	中村
11	H12年6月20日	京都 サンフラワー京都	20	19	39	
12	H14年4月1日	北九州一四国方面旅行	14	11	25	
13	H16年9月24日	栗津温泉 金閣	22	22	44	中村
14	H18年5月28日	加賀温泉 片山津翠湖	21	20	41	
15	H20年9月26日	栗津温泉 金閣	19	17	36	
16	H22年9月16日	山代温泉 山下家	20	17	37	
17	H24年10月22日	京都 時代祭り観覧	16	11	27	
18	H26年5月25日	松風荘	17	14	31	
19	H28年10月16日	翠湖	11	14	25	

嗚呼、道下幸助さん逝く（二）

南風原陸軍野戦病院第24号地下壕

辰口地区 永山純夫



コマツOBの沖縄戦の生き残りの聞き書きの続編です。

――傍に居た戦友が「道下どうしたやられたか」

戦友二人が駆けつけて道下さんの頬を数発、殴りつけた。何発目か意識が戻った。道下さんは初めて自分がやられたことが分かった。ズキンズキンと痛みを感じて、みると右手の軍服の上からぬるぬると血糊があり「傷はまだ浅い、腕だけだ」と言って戦友二人で百メートル後方の穴壕へ引摺って入れてくれた。其所で衛生兵が「骨が折れておるが腕だけだ。」と言って軍服の腕の部分をハサミで切って板切れの様な物を当てて、出血止めの為に腕の付け根のところをしつかりと仮包帯を幾重にも巻き付けて、首のところから腕を包帯の紐で吊って「しばらくそこで休んでおれ」と。

やがて戦闘も一段落して米軍も後方へ移動し、後は艦砲射撃だけとなり、友軍（日本）の方も相当の死傷者があつちにもこつちにも出ており、中隊長がやって来て「道下、君の傷は未だ浅い。然し、この戦闘で我々の部隊としての行動は出来ぬ。後の残存兵力は十人残ったか、二十人残ったか分らぬが、貴様は此れから此の陣地に待機しておる防衛隊（沖縄県の民間人）の方々（四・五人）の中の一人を付けるから、日が暮れたら、後方に在る陸軍の南風原（はえばる）野戦病院へ肩を貸してもらつて、その人に案内してもらつて治療せよ。我々は玉（弾薬）も無く兵器も無く、一応は中隊として行動はするが、後幾日かの、命しか無い。君は野戦病院で傷が治つたら再び戦闘に立つてくれ。然し最早、我々の中隊に帰つて来る事も無いだろうし、我々の中隊が何処へ行つておるかも分らぬであらう。」

其処（前田高地の陣）で生き残つた方々と最後の生き別れをして、その日の晩、道を迷いに迷つて、艦砲の砲弾や飛行機の爆弾の跡の穴だらけの所を、或は兵隊や沖縄県民の死骸が彼方此方に。或は軍馬（軍用の馬）の死骸の多いのに驚きながら——（この軍馬の道下さんの話を、元近衛騎兵の松浦幸作さんに聞かせたら「大部前に沖縄の軍馬の無残な最期を——真逆か——と思つて聞いていたが、矢張り、あの話は本当の話だったんですねえ——なんとむごい話だ。軍馬が可哀想だ」と松浦さんは涙を流してため息をつかれた。会誌32号参照）

或は破壊された戦車や諸々の兵器やら畔道を色々とたどつて行くけれども、地元の人でさえ、彼方へ迷い、此方へ迷い、砲弾が来れば畔道に伏せたり、傷はズキンズキンとうずいてくるは、まったく生きた心地がしなかった。

夜明けの三時頃か、漸く南風原の野戦病院に辿り着く。野戦病院と言つても病院の建物が外に建っている訳でも無く三十近くの穴壕の真中に本部壕が在り（分らない筈）その本部壕までどうにか辿り着く。そこで送つて来られた沖縄防衛隊の方が、「兵隊さん帰ります。」と言つて一人で帰られた。その方は恐らく中隊へ帰らず、自分の家か、自分の思つた避難所へ帰られたと思われる。

野戦病院の入口で所属部隊名、官姓名、負傷箇所を受付で申告する。大抵の部隊は数人の兵隊が来て申告するが、道下さんの場合、小部隊であつたので申告は全て道下さん一人でやらなければならなかつた。直ぐに治療して頂けるものと思つて（期待して）おつたら「分かつた、受け付が終つた。すまんが外の方で待つとつてくれ、順番が来たら呼び出すから、中の壕は殆んど満員で満配で、治療のすんだ者は其の壕にそのまま収容（入院）しておる。穴壕の外で待つとつてくれ。」との指示で外へ出て見てびっくりした事は、壕の外の芋畑の広場に、手をやられた者、担架に乗つたままの者、地面に直に寝かされた者など数十名が順番待をしておる。重症患者に付いて来た兵隊達は皆其々の原隊（元の所属部隊）

に帰つて、患者だけが放置されておる。なんと悲惨で、醜い光景だろう。夜であるので、飛行機が飛んで来ないが、時々艦砲弾が近くで炸裂する。夜が明けると艦砲の他に空襲が始まるから、何とか夜明けまでに治療の順番が来て欲しいと祈る気持ちで一杯。

夜明けの薄明りの中で目を凝らして見ると、壕の中で亡くなつた人を担架に乗せて外の低い所まで運んで、遺体を捨ててから空になつた担架に外で順番待ちの次の負傷兵を乗せて壕の中へ運んだ。それから切斷した手や足などを壕の中から持ち出しては畑の低い所に捨てて行く。それから昼間は空襲で炊飯が出来ないから、夜の間に外で炊飯する為に水汲みなど主に従軍看護婦や女子挺身隊の方々が、しきりに出入りして居た。それを眺めながら早く自分の順番を待つていたけれど、残り十数人かのところで夜が明けてきたので、これ以上の壕の出入りは危険なので「今日のところはここで打ち切るから、残つた者は空襲に備えて、畔道の深い所へ身を潜めて居る様に」との指示をして、全く身動きの出来ない重傷者をなんとか低い所へ、陰の所へ避けて寝かしたけれど、十分な避難とは言えなかつた。

道下さんは幸い足が大丈夫だったから畔道が一番深い所に入つて寝たままの状態で昼間過した。折角壕の前まで来ていながら、治療を受ける事も無く、艦砲射撃の砲弾と飛行機の爆弾でやられて命を落した負傷兵が何十人も居られた。或は又、治療を受けながら亡くなられた方々沢山居られたが、壕に入る事が

出来なかつたばかりに戦死された負傷兵が、数十名居られた。道下さんは前線で仮包帯を受けたきり、その後は何の手当ても治療も受けて無かつたので、傷がズキンズキンと痛みを増し、負傷箇所よりも、血止めの為にきつく締めた個所が痛くて、一層の事、敵弾に当たって、あっさりと逝つた方が楽になると、そればかり思つた。

二晩目になると本部壕前でやられて亡くなつた負傷兵の死骸が片付けられると、また戦場から新しい負傷兵が続々と運ばれて来た。夜明けの四時ごろになつても未だ沢山の負傷兵の順番待ち、このままの状態ではもう駄目だと思つたら、幸い、下士官の衛生兵が、外の状況を見に来て衛生兵や女子挺身隊に色々と指示しながら道下さんの目の前に来た時、下士官の上着の裾をガッチリと片手で掴んで「軍曹殿!! お願い!」「兵隊、どうした」と言つて僕の負傷の様子を見ながら、「痛い。我慢せよ。見た通りや、もうこれ以上どうにもならん」「軍曹! 何時まで我慢したら出来るか、それだけでも聞かせてくれ!」「僕も見当がつかん。見た通りだ。噫、何とか君達を今日中に手当をしてやりたいが、もう夜明けの時間が少ない。夜が明けると此所は又空襲される。待機している負傷兵が犠牲となる。然しどうにも処置がない。君は未だ足が大丈夫なら、壕の中へ入れんだら何処何処の彼処に隠れておれ」と言われて僕は嫌な話やけど、死骸の山の中に入つて、死んだ戦友を盾にして、その戦友の遺体の中へ隠れた。

あくる日の夜、又、軍曹が出て来た時、「軍曹殿! 何とか私はこの腕だけですから治療だけして頂けば、私は原隊へ帰りますから」と死にもの狂いで、何とかお願いしますと、軍曹にしがみ付いた。此の軍曹は非常に人情深い、赤紙の召集令状で応集された召集兵の年輩の下士官だったので、僕の顔をジツと見て「ウン兵隊! 君は前の晩も来ておつたなあ。痛いのは当たり前だよ。君は未だ元気だが、此所は痛いと言う言葉も出ず、うめいて居る者ばかりだ。君は痛いと言えただけでも喜べ! ウン——軍曹は暫く考えて、君は足が大丈夫なら命は大丈夫な筈や。(助かる見込みの無い患者を治療するより、助かる見込みのある負傷兵に治療を受けて助けた方が、状態が良ければ又戦列に復帰出来る。大変失礼な話だけれど軍曹はそれを見ていたと推測)。「ウン、あの壕は死体を片付けて少しは空いておるか、僕に付いて来い。」

ところが、三十ばかりの壕があつて彼方でも此方にもバラバラに在つてかなり遠い。道なき道を色々の壕の前を通つてすべつて転ぶ。弾がドンドン飛んで来る。夜が明けようとしている。其処を何回も転ぶ。軍曹は僕を引き起こして「しっかりとせよ! 何だこの位で!」頬をパシツと殴られた。憎くて殴るのでなく気合を入れる為で、気が立つて歩く。幾つ目の壕へ来て「ヨシ! 此所へ入ろう。此所ならなんとかなるだろう。後は自分で行け! 僕はそんな隙は無い。」

壕の中は低いお椀型になつて真中に細い通

路があり、両脇に丸太棒を立て板を乗せて患者を寝かせてある。二段になつて非常に狭い所で生き地獄とはあれやねえ。呻き声やら、「殺せえ!」上段の者が小便垂れると、「この糞野郎!!」そりゃ順番が来ぬ筈、奥へ入るだけ、臭いやら、死臭、膿の臭い、汗の臭い、大小便の臭い、生きた人間の居る娑婆じゃ無い。入つた途端に圧倒されてふらふらつと倒れそうになつた。その狭い所を女子学徒隊、衛生兵が出入りしている。衛生兵が「おい! 貴様! どれ!」「斯く斯く然々」「それなら奥の方へ、兵隊! ここに座つとれ!」そこは連絡の為に横壕(通路)があつた。その地面にへばり込んで、もう一步も動けなくなつた。色々な臭いに呻き声に怒鳴り声、衛生兵や女子学徒隊が死体の運搬、水運び、大小便や汚物の後仕末に追われ、様い所を交差するのが大変、壕の中に入れてもらつたのは有難かつたが、今となつては前よりも訳が悪くなつたと思つた。

殺氣立つた別の衛生兵が来てどなつた。「貴様か!! 今入つて来たのは! この混雑している中に入つて来て、どうするんだ! 早く出て行け!! 何しに入つてきた!」「はい! 本部の方で軍曹の方から、あの壕へ行けと言われて来ました!」「馬鹿たれ!! 誰彼が言おうとこんな所へ入つてきて、其処は出入りの邪魔になる早く出て行け!」と足蹴にされた。

(つづく)



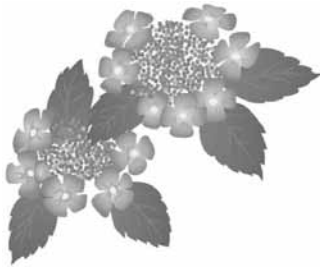
道下幸助さん

大正12年生 陸軍の追撃兵

軽迫撃砲玉一二三八部隊

新平（二等兵）の頃の写真です。（沖縄戦の後）
内地へ復員局の管理下の頃の写真

続きは会誌39号「南部撤退」です。



プライバシー侵害を受けての

批評・評論

向本折地区 小枝俊弘



●一、はじめに

今回は過去、本誌に寄稿した「自由」、「平等」と、それを行使する際の「正義」についてのテーマと同様に基本的人権に属する「プライバシーの権利」についてを本題「プライバシー侵害を受けての批評・評論」を通して語ります。昨年本誌第36号で「わが生い立ちの記―わたしの履歴書4―」の内容（概略見出しは後述の●二で）は自分史そのもので、それに伴う本稿筆者（以下、小生と記述）の「プライバシーの権利」が損なわれた事でした。イヤナ想いの一年間ズートこの事を心に秘めていましたが、続編の本誌37号の仮題「わが生い立ちの記PART2―わたしの履歴書5―」で再発されては叶わないとの想いがあり、「私生活の」や「個人の」秘かな事実秘匿して公開されない個人の尊厳を守る人権（プライバシー権）のより深き理解を読者にして貰う為に寄稿をしました。日本国憲法の三大原則の**国民主権、平和主義、基本**

的人権の内の基本的人権に属し、それは人間・個人の尊厳の尊重、法の前の平等、幸福追求権等の包括的基本権と自由権（信教の自由、思想・良心の自由、学問の自由、「表現の自由」、集会結社の自由、通信の秘密、知る権利等）や社会権（労働基本権、生存権等）、参政権、国民請求・受益権等が多々ありまして、包括的基本権より導き出される環境権、日照権等と同列に人格権（「プライバシーの権利」、肖像権等）があります。以上日本国憲法では「個人の尊厳」「プライバシーの権利」を尊重し保障される大前提制約のもとに「言論や表現の自由」と密接な関係があります。民主主義を尊重する日本社会とりわけコマツO B会であれば会員相互や他を思い遣る事が大切で就中、人権問題では被害者に寄り添う態度が大切です。

●二、本誌36号「わが生い立ちの記―わたしの履歴書4―」の概略と問題点

●二の一、プライバシー侵害の具体的な概略

具体的な中身は本誌36号をお読みの会員読者は既に理解済みですが未読者の為に概略の見出し（◆印は見出し）は以下で、その中の「◆疎開は母の故郷へ」で小生の具体名（実名と当時年齢）が一方的に表示され「◆終戦は苗代国民小学校で迎える」の見出し以外の◆父母のこと、◆八百物店「千鶴」の開店、◆早逝した読書好きの父、◆明るく真直ぐな性格の母、◆今出川界限のこと、◆終戦間際の縁故疎開、◆東町から芦城小学校へ、◆西

町に転居、芦城中学校への九つの見出し内容は自身の「生い立ち」ではあるが同時に実弟である小生の「生い立ち」、そのものでもあります。旧友や親友、親族同士の互いの「生い立ち」を多少知る立場に限るべき自分史（定義は後述）の読者範囲を越える本件は小生のプライバシーを侵害する心外な「自分史」事件である。

●二の二、自分史の読者対象を超えた異常な著述

それでは本誌の具体的な「自分史」とは何かを説明すると、「私の履歴（書）」で「わが生い立ち」を語っている積りでいるが自分史の定義とは因みに一市井の庶民が本来、先祖・両親の事、本人の誕生前後から老境までの時間軸を基に自分のこれまでの履歴（生い立ち）や生き方の主張をする私的な読物を極めて限られた親族・親戚や旧友・親友等人間関係の交流の中から自然と知る間柄を対象に配布する私的なもので、時には本人以外の自分史を受取る側のプライバシー侵害が内包する微妙なものでもあり、あくまで私的関係（親族・親友）のある方々の読者対象に限定するものです。しかし今回は読まれるべき対象者は本誌の読者で、コマツOB会員及びその家族、コマツOB会のインターネットのホームページにも転載されていますので、栗工以外のオールコマツのOB会員（本社、川工、大工、小山工、氷見工、その他関連会社）及びその家族という広範で不特定多数の約五千人

が対象に及びます。本誌第36号で「わが生い立ちの記―わたしの履歴書4―」の件で不特定多数の会員及びその家族が読むパブリックな本誌に極めて私的なものを小生に無断で寄稿し発行されました。

●三、有名人の有名税と無縁の一市井のプライバシー侵害だからこそ重大である

今回の作品は「言論や表現の自由」と「プライバシーの権利」との間に発生する問題です。そして言うまでも無く作品の著者には民主社会ですから自分の「生い立ち」を語る私的範囲での「言論や表現の自由」の権利は有るが同時に他人のプライバシーを侵害した場合の責任も当然に生じます。著述の中で無意識・無造作に例え意図が無くても五学年違いの実弟と「生い立ち」の著述内容は必然的に約九割が共通である故に公に発行された結果としても他人の個人情報違反及び他人のプライバシーの侵害を含む憲法及び公序良俗違反が生じました。一度公開した結果、そんな大袈裟な事と想わなかったや、そんなに悪い事したんけ、悪気はなかったんや、全然氣付かなかった、忘れてくれ、目をつぶってくれ、無かった事、知らなかった事にしてくれ等の色々の声が聞こえそうだが成り得ません。事実上「覆水盆に帰らず」で誌上公開した結果は軽いものではありませんし元には戻りません。

●三の一、有名人の有名税・例1日経新聞の「私

の履歴書」

世界をリードした大統領や一国の宰相の「回顧録」等なら、その内容の活動記録は公事は勿論、私事を含めて興味・関心を示す読者は多いだろうから、これらの超有名人でなくとも、今回の問題は日本国の政界、財界、芸能界等の所謂、有名人専用の日経新聞の「私の履歴書」の向こうを張って、一市井の後期高齢者が所謂・自分史の範囲を超えて日経新聞の「私の履歴書」の所謂、分不相応の日本国の全国区の有名人並みの野望？がそうさせたのでしょうか。有名人の有名税とは読者の皆様ご存知のように、有名人には有名なるが故の恩典と利得が得られる反面、有名税という名のプライバシー侵害及び、その恐れある迷惑を甘んじて受けねばならぬ不文律あります。日経新聞の「私の履歴書」の読者は寄稿者も其の内容に登場する交友人も殆ど有名人であり、日経新聞の読者は内容が殆ど有名人であるからして関心・興味があり人気がある所以なのです。そして、それらの有名人は日本国での政界、財界、芸能界等にプラス面とマイナス面との差引いてもプラス面が多く結果として、これら有名人は人気と各種の報酬を得ています。

●三の二、有名人と有名税・例2NHKテレビ番組「ファミリーストリー」

NHKでは一般視聴者なら誰でも知られている有名人としての先祖の映像歴史で丁度、部分的には日経新聞「私の履歴書」のテレビ

版相当の番組「ファミリーヒストリー」で本人・配偶者の曾祖父かの家系人物のあらかたの足跡を追ってくるが亡くなった父母迄で、生存中の父母（有名人が多い）及び生存中の兄弟（有名人が多い）については個人情報法違反やプライバシーの侵害になる恐れがあるので有名人本人や有名人の存命中の祖先（有名人が多い）に対しての有名税のある人達さえもプライバシー侵害にならぬ様に次述の「宴のあと」裁判の判例に配慮して編集・放映しているのが実情です。

●三の三、有名人「宴のあと」裁判の判例とは

日本国内では今やプライバシーの侵害の教科書又はバイブルにすらなっている「宴のあと」事件（作家・三島由紀夫氏と出版社・新潮社を相手に元外相・有田八郎氏が訴えた）は「表現の自由」と「私生活をみだりに明かされない権利」という論点で進められ、「言論、表現の自由は絶対的なものでなく、他の名誉、信用、プライバシー等の法益を侵害しない限りにおいて、その自由が保障されているものである」との判断を示し「プライバシー権の侵害の要件は次の三点である」と判示した。

一、定義として私生活上の事実、またはそれらしく受け取られるおそれのある事柄であること、二、根拠として一般人の感受性を基準として当事者の立場に立った場合、公開しないであろうと認められるべき事柄であること、三、侵害として一般の人に知られていない事柄であること・このような公開によって当

該私人が現実には不快や不安の念を覚えたこと・とあるが今回の場合、本誌、過去36年間の四・五百件の応募作品数の中で唯一の他人の尊厳を無視するプライバシー侵害作品が本誌に発行され、「宴のあと」事件判決で有名税該当の有名人ですらプライバシー権が守られ、況や本誌36号の記述内容の場合、有名人でない小生のプライバシー権が守られて当然なのに完全無視され心痛めています。

●四、おわりに

●四の一、問題点について

そもそも小生は本誌27号以来、毎年、前回・本誌36号まで連続十回寄稿・掲載される実績で某常任理事と実弟である事は自明の事柄で認識されている。例えば某氏の様に編集委員でありながら今回のプライバシーの侵害を二重の意味で侵害している。絶対有ってはならない野球試合での選手（寄稿者）兼審判（編集委員）みたいなものだ。寄稿原稿の「内容を問わない」と言っているが、その大前提は公序良俗厳守（財産的・倫理的秩序に反する行為及び自由や人権を害する行為はしない）で人権の中のプライバシーは当然含まれる。

●四の二、被害者の想いに

一市井のコマツOB会員（庶民）が自己の「生い立ち」を詳らかに第三者（オールコマツOB会員とその家族）に公開すれば、既に亡くなった両親や親族もあの世で迷惑するだろう

が、あの世は日本国憲法が適用されないのだから、現世で生存中の親族、取分け、本コマツOB会員の就中、現役の地区理事（小生）であれば、本誌36号「わが生い立ちの記―わたしの履歴書4―」を読んだ身近なコマツOB会員から（株）コマツ入社以来からの面識のコマツOB会員に至るまでの内心の静かなる影響の存在は、内容が真実又はそれに近いとして受けとめられ、必然性のない一般他者に知られてない事実を被害者が欲しない気持ちを無視して公開され、不快・不安の念を覚えた被害者としての不愉快は真に人間の尊厳を無視した行為である。お互い人間を約七十年以上遣って来て、人生最終の第四コーナーのトラックを走っていて、人間として完成を目指して極楽往生を願っている。往生際の悪い既述●三の後半の言訳は通用しない。法律を知らなかったのは、其人の責任で法に触れかねない行為は法治国家・日本国で通用しない。人治国家・中国を否定する日本国民であれば筋を通して謝罪し晴れて遙か先にある極楽往生を目指そうよ。

（完）

『コマツOBゴルフ同好会』の紹介

コマツOBの方でゴルフが好きな方々の集まりです。月1回（10回/年）コンペを開催してゴルフを楽しんでいます。皆さん同好会へご入会の上、ゴルフを楽しみましょう！！

平成28年の成績(上位のみの抜粋、飛賞・NPは省略)

敬称は省略

	第271回				第272回				第273回				第274回			
	平成28年3月15日				平成28年4月12日				平成28年5月10日				平成28年6月14日			
成績	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET
優勝	前田 和雄	102	29	73	高来 満	85	21	64	竹村 安造	91	22	69	山下 賢司	80	16	64
準優勝	清水 豊	95	22	73	中島 久人	91	23	68	木本 信一	92	22	70	大塚 由實	94	28	66
3位	佐伯 洋	93	19	74	稲富 隆夫	99	31	68	松本 忠義	95	25	70	片山 諭	85	19	66
4位	小原 光和	87	12	75	上田 幸久	96	27	69	室 統季雄	86	15	71	中村 外次	86	17	69
5位	関戸 邦雄	89	13	76	前田 信行	79	10	69	升田 良造	92	21	71	北村 明雄	93	24	69
6位	桜井 昭維	98	22	76	淵田洋一郎	94	23	71	岩崎 信二	89	18	71	上田 幸久	97	27	70
7位	竹川 和信	96	20	76	関戸 邦雄	84	13	71	杉山 制二	99	27	72	中島 久人	87	16	71
B.B	北村 明雄	122	24	98	前田 和雄	110	20	90	大田 晋吾	112	13	99	谷舗 一矢	125	40	85
B.G	小原 光和	87			前田 信行	79			関戸 邦雄	86			山下 賢司	80		
特記事項	1.平日無料プレー券は下記の方へ (1)当日賞:北野元男さん (2)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲｽ5:松田順治さん (3)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲｽ15:大田晋吾さん				1.平日無料プレー券は下記の方へ (1)当日賞:齊藤 貢次さん (2)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲｽ5:出口俊雄さん (3)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲｽ15:中村幸雄さん				1.平日無料プレー券は下記の方へ (1)当日賞:佐竹保之さん (2)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲｽ5:安達利勝さん (3)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲｽ15:中島久人さん				1.平日無料プレー券は下記の方へ (1)当日賞:高田龍蔵さん (2)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲｽ5位:高来満さん (3)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲｽ15位:角谷正樹さん			
	(参考)	参加人数：59名				参加人数：66名				参加人数：67名				参加人数：66名		
	第275回				第276回				第277回				第278回			
	平成28年7月12日				平成28年8月9日				平成28年9月13日				平成28年10月11日			
成績	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET
優勝	船曳 祥男	93	26	67	小崎富美男	82	18	64	山口 忠義	96	30	66	角谷 正樹	99	32	67
準優勝	永田 良	102	35	67	淵田洋一郎	88	23	65	北村 明雄	90	24	66	山本 晴充	88	20	68
3位	山田 俊昭	83	15	68	川畑 健児	84	19	65	関戸 邦雄	82	13	69	釜本 隆司	94	25	69
4位	北野 元男	87	18	69	関戸 邦雄	80	13	67	上田 幸久	96	27	69	竹川 和信	89	20	69
5位	佐竹 保之	87	18	69	二輪健太郎	88	20	68	山下 敏夫	82	13	69	杉山 制二	98	27	71
6位	中村 幸雄	84	14	70	田中 盛夫	89	21	68	中村 幸雄	84	14	70	中村 幸雄	85	14	71
7位	飛田 勇治	90	20	70	山田 俊昭	79	11	68	佐竹 保之	88	18	70	山下 敏夫	84	13	71
B.B	今井 時男	105	18	87	松田 順治	120	30	90	橋本 明	119	28	91	山崎 雅弘	109	18	91
B.G	山田 俊昭	83			山田 俊昭	79			関戸 邦雄	82			山下 敏夫	84		
特記事項	1.平日無料プレー券は下記の方へ (1)当日賞:山下敏夫さん (2)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲｽ5:桜井昭維さん (3)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲｽ15:山本良孝さん				1.平日無料プレー券は下記の方へ (1)当日賞:中村幸雄さん (2)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲｽ5:木本信一さん (3)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲｽ15:坂野 保さん				1.平日無料プレー券は下記の方へ (1)当日賞:中村外次さん (2)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲｽ5:木本信一さん (3)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲｽ15:桜井昭維さん				1.平日無料プレー券は下記の方へ (1)当日賞:桜井昭維さん (2)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲｽ5:中島久人さん (3)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲｽ15:上田幸久さん			
	(参考)	参加人数：59名				参加人数：61名				参加人数：64名				参加人数：58名		
	第279回				第280回(納会:WP)				ゴルフ同好会へ入会ご希望の方は下記へご連絡下さい 代表幹事：山田 俊昭 TEL：0761-23-0846 090-9768-1186 携帯Eメール toshi-yamada1121@ezweb.ne.jp							
	平成28年11月8日				平成28年11月30日											
成績	氏名	GROSS	Hcp	NET	氏名	GROSS	Hcp	NET								
優勝	佐竹 保之	87	18	69	中村 幸雄	85	13.2	71.8								
準優勝	中村 幸雄	84	14	70	前田 信行	81	8.4	72.6								
3位	竹川 和信	90	20	70	深田 武男	102	28.8	73.2								
4位	二輪健太郎	91	20	71	稲富 隆夫	96	22.8	73.2								
5位	上田 幸久	100	27	73	吉田 昭久	103	28.8	74.2								
6位	杉山 制二	101	27	74	片山 諭	96	21.6	74.4								
7位	高田 龍蔵	90	16	74	今井 時男	105	30	75								
B.B	桜井 昭維	117	22	95	北村 昭之	121	37.2	83.8								
B.G	中村 幸雄	84			佐竹 保之	82										
特記事項	1.平日無料プレー券は下記の方へ (1)当日賞:田中盛夫さん (2)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲｽ5:北村昭之さん (3)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲｽ15:松本忠義さん				1.平日無料プレー券は下記の方へ (1)当日賞:橋本 明さん (2)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲｽ5:木本信一さん (3)ﾌﾞｰﾋﾞﾏｲｽ15:坂野 保さん											
	(参考)	参加人数：64名				参加人数：55名										

ゴルフ同好会へ入会ご希望の方は下記へご連絡下さい

代表幹事：山田 俊昭

TEL：0761-23-0846 090-9768-1186

携帯Eメール toshi-yamada1121@ezweb.ne.jp

小松製作所栗津工場OB会規約

第1章 名称および目的

- 第1条 本会は「小松製作所栗津工場OB会」と称する。
ただし、「コマツ栗津工場OB会」と称することも可とする。
- 第2条 本会は会員相互の親睦・交流を図ることを目的とする。

第2章 会 員

- 第3条 本会は下記の者をもって構成する。
1. コマツ栗津工場の定年退職者。
 2. 本社・他事業所・関係会社へ出向または移籍後の定年退職者。
 3. 本社・他事業所・関係会社の定年退職者で、当地へ転入して入会を希望し、常任理事会がこれを認めた者。
 4. 上記に準ずる者で常任理事会が入会を認めた者。

第3章 機関および役員

- 第4条 本会の機関は、総会、常任理事会、および理事会とする。
- 第5条 総会は本会の最高決議機関であって、毎年4月に定期総会を開く。
なお、理事会において必要と認めた場合は、臨時総会を開催することができる。
- 第6条 1. 常任理事会は会長、副会長・会計・常任理事をもって構成し、会長の諮問に応ずるとともに、理事会への提案事項を審議し、会務を執行する。
2. 1項の会務および第24条の本会事業の円滑な遂行を図るため事務局を置く。
事務局は常任理事をもって構成し、事務局長・局員若干名とする。
- 第7条 理事会は会長・副会長・会計・常任理事・会計監査および理事で構成し、常任理事会からの提案事項・その他重要事項を審議し、会務を執行する。
- 第8条 各機関の決議は、出席人員の過半数の同意を必要とする。
- 第9条 本会には下記の役員を置く。
- | | | | |
|-----|-----|------|----------------|
| 会 長 | 1 名 | 常任理事 | 若干名 |
| 副会長 | 3 名 | 会計監査 | 2 名 |
| 会 計 | 1 名 | 理 事 | 別に定める地区分会ごとに選出 |
- 第10条 役員は会員中より選出し、総会の承認を得るものとする。
- 第11条 1. 役員の任期は2年とし、再任を妨げない。
2. ただし、最長期間は5期10年（役職通算とするが、地区理事の就任期間は除く）とし、役職による期間は3項による。
3. 1. 常任理事 4期8年とする。 2. 事務局長 3. 会計 4. 副会長 5. 会長は各3期6年とする。
4. 改選時以外に就任した時は、3. の期間に加算するものとする。
- 第12条 会長は本会を代表し、会務を統括する。
- 第13条 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。
- 第14条 常任理事は会長、副会長を補佐し、会務を執行する。
- 第15条 会計は本会の会計を担当処理する。
- 第16条 会計監査は本会の会計を監査する。
- 第17条 理事は地区分会を代表し、会務を執行する。

第4章 地区分会

- 第18条 本会には別に定める地域割りによる地区分会を設置する。
- 第19条 地区分会は各々の地域内において、本会の設立目的に沿い諸活動を行う。
- 第20条 地区分会には前条目的達成のため、必要に応じ委員を置くことができる。

第5章 会 計

- 第21条 本会の会計年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。
- 第22条 本会の経費は次の収入をもって充当する。
会費・入会金・寄付金・コマツ栗津工場およびコマツユニオンからの賛助金。

- 第23条 1. 会費は年額2,500円とし、前年度末までに納入する。
2. 新規入会者は入会時に入会金2,000円を納入し、会費の納入は次年度よりとする。ただし、65歳以上で入会する場合は、3,000円以上別に定める入会金とする。
3. 退会者（死亡者も含む）に対しては、既納の入会金・会費の払戻しはしない。
4. 会員が満90歳（4月1日現在で）を超えたる時、または、長期重度療養見舞を受けたる時は、次年度より会費の年額を1,000円とする。
5. 白寿の祝いを受けられた方は、名誉会員として、次年度以降の会費の納入を免除する。

第6章 事業

- 第24条 本会は次の事業を行う。
1. 親睦・交流のための諸行事。
 2. 会報および会誌の発行。
 3. 会員名簿の作成および改訂配布。
 4. 会員米寿および白寿の祝い。
 5. 会員および会員配偶者の死亡に対する弔慰。ただし配偶者の場合は会員生存中に限る。
 6. 長期重度療養者の見舞い。
 7. ボランティア活動。
 8. その他、本会の目的達成のために必要な事項。
 9. 慶弔の基準は別に定める。

第7章 退会

- 第25条 1. 会員本人が退会の届出をした場合、および年度会費納入の請求に対し1年以上未納の場合（住所・連絡先不明の場合を含め）は、退会とする。
2. 退会した場合は、会員名簿より氏名を削除し、以後は会員権利の行使を認めない。
3. 退会後の再入会は、やむを得ない事情があることを常任理事会が認めた場合に限りこれを認める。

第8章 付則

- 第26条 本会の規約改定および解散は、総会の3分の2以上の同意を必要とする。
第27条 本規約に定めなき事項については必要の都度、役員協議の上決定する。
第28条 本規約は昭和53年（1978年）6月4日より施行する。

最終改定日 平成25年4月25日総会にて決定。

【内部規定抜粋】

・慶弔基準

1. 米寿および白寿祝い
満88歳および満99歳を迎えた方に、5,000円相当のお祝いを贈呈する。
2. 長期重度療養者見舞い
3ヶ月以上、施設または自宅で療養中であり、かつ要介護3以上と認定された方が対象。
お見舞金は、10,000円、同一人に対して1回とする。上期と下期の2回調査する。
3. 会員および配偶者死亡にたいする弔慰
会員の死亡には、香典10,000円、生花1基、弔文を贈り、地区代表者が弔問参列する。
会員配偶者の死亡には、香典5,000円、弔文を贈り、地区代表者が弔問参列する。

・定期外入会者の入会金

- 65歳未満の入会者・・・入会金 2,000円
65歳以上～70歳未満の入会者・・・入会金 3,000円
70歳以上は常任理事会の承認を得て・・・入会金 5,000円
他工場OB会から転入した場合・・・入会金不要、入会年度会費必要

編集後記：

今年もコマツ栗津工場OB会誌第38号が刷り上がりました。これもひとえに会員の皆様のご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

この会誌は会員皆様の親睦を図るための一手段として、編集員一同苦心しております。前半はOB会の年間行事を中心に報告事項がおもであり、後半は会員の皆様の自由投稿によるものです。

今年は、来期40回記念総会の年であり、皆様からの投稿も、特に個別に依頼せず、自然投稿のみとしたためか、投稿者数が少なく気になります。次号は40回記念総会の年でもあり長年の皆様の思いを、ぜひ投稿いただき特集が組めるほどになることを願っております。なお、本号では寄稿の縦書4段組みでの表示を、縦書3段組み表示に変えてみました。これは、皆さんの原稿の表題や項目説明が4段では表しづらいためです。これらについてご意見が有りましたら編集委員会または事務局まで意見を賜ればと考えています。

また、我々編集委員は「OB会誌編集方針」の決まりにより、皆様の投稿原稿に対し、誤字・脱字・句読点・難読語および公序良俗・誹謗中傷・営利目的・事実誤認などについて確認させて頂いておりましたが、最近、プライバシー侵害や著作権についての項目が無いとの指摘があり、これらにも対応することになりました。

皆様の投稿原稿を作成の時には、お手数ですがご確認のほどよろしくお願い致します。これからも、皆様が元氣にお過ごしになれることを祈念するとともに、OB会活動へのご協力をお願い申し上げます。

本号の感想をお寄せ下さい

会誌第38号で、最も面白かった投稿、印象に残った投稿その他感想を、中本までお寄せ下さい。

次号 会誌原稿募集

平成30年3月発行予定の会誌第39号の原稿を募集します。

●原稿募集要項

1. 字数は、四百字詰め原稿用紙10枚以内（表題、写真含む）
2. 随筆、紀行文、思い出、俳句、川柳など内容は問いません。
3. 表紙の写真・絵画も募集。
4. パソコン利用の方は、ワードデータで送信してください。
5. 原稿締め切り H29年11月末日
6. 原稿送付先 および お問合せ
小松市下栗津町や33-14 中本 久治
TEL 0761(43) 0971
メールの場合
nahisaji.meil@hb.tpl.jp

コマツ栗津工場OB会

会誌 第三十八号

発行日 平成二十九年三月三十一日
発行者 OB会会長 竹田 敏洋
発行所 石川県小松市符津町ツ二十三
コマツ栗津工場OB会
編集者 会誌編集委員会（常任理事会）
委員長 中本 久治
事務局長 向井 良夫
電話 〇七六―一二二―七三五〇
印刷所 石川県小松市向本折町八一七一
有限会社 斉藤印刷



コスタ・ビクトリア号

ヴォ〜〜〜ツ クルーズ船「コスタ・ビクトリア号」です。

観光ブームにのって、7月～9月の間に5日毎に11回も金沢港を入出港しました。
この写真は、10回目の出港のときにパチリ！ 霧雨の降る暗闇のなかに、アレアレって
いう間に小さく消えて行きました。

撮影日時：2016年9月5日

撮影場所：金沢港・コマツ金沢工場対岸にて

撮 影 者：沢村 勝義（金沢地区）



北米のユーザーへ

“1日1撮り” 散策をしていたら、毎日のように新しい建機を載せたトラックが国道を走っているのに出会った。

もしかして?と想ってトラックのあとを追ったら、やはり行き先は金沢港でした。「ウワァ〜ッ・すご〜い!」と、声の出るような光景を観ました。

栗津工場で生産された『建設機械 187 台 (過去最高)』を積み込むために、金沢港に『過去最大の巨大貨物船』が初寄港。と報じた新聞記事を翌朝読み、感激しました。

撮影日時：2016 年 4 月 5 日

撮影場所：国道 8 号線金沢西インター近辺と
金沢港大浜埠頭

撮 影 者：沢村 勝義 (金沢地区)